

四日市市建築設計業務委託特記仕様書

I. 委託業務概要

1. 件名 あさけプラザ体育館空調設備新設工事ほか設計業務委託

2. 設計対象施設

(1)場所 四日市市 下之宮町 地内

(2)既存施設概要及び設計業務内容

記号	施設名称	構造規模等	設計業務内容		備考
			基本設計	実施設計	
	あさけプラザ	鉄筋コンクリート造 5階建		○[改修]	別紙2による

・耐震安全性の分類

官庁施設の総合耐震・対津波計画基準による、耐震安全性の分類は次のとおりとする。

- | | |
|------------|----|
| 1) 構造体 | Ⅱ類 |
| 2) 建築非構造部材 | A類 |
| 3) 建築設備 | 乙類 |

・用途地域及び地区の指定: 準住居地域 22条区域 該当なし
及び第1種住居地域

3. 設計業務内容及び範囲

(1)設計業務概要

令和6年国土交通省告示第8号に基づく(告示別添二)建築物の類型

第 12号 1類

(2)設計図書の作成

別表1 成果品一覧による。

II. 一般事項

- 設計業務にあたっては、監督職員と密接な打合せを行い、その指示に従うこと。
なお、打合せは、原則として管理技術者の立会いのもと行うこと。
- 関係各機関(県、市、町、村、消防、NTT、電力、ガス、その他)との設計上必要な打合せ説明、申込、提出書類等の作成は受託者が行い、その結果を文書で監督職員に報告するものとする。
- 打合せ用の設計図書は、必要に応じて受託者が随時作成するものとする。
(打合せの図面等のサイズは監督職員の指示による。)
- 管理技術者の資格は、設備設計一級建築士又は建築設備士とする。
- 本仕様書に記載されていない事項は、「四日市市建築設計業務委託共通仕様書」による。

III. 設計図書作成要領

- 仕様書は、市指定の特記仕様書及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築(改修)工事標準仕様書を使用すること。
- 設計図の作成は、前記仕様書、建築基準法及び消防法等の関係法令に整合した内容とすること。
- 設計図には、原則として材料の商品名、製造会社名を記入しないこと。
- 特記仕様書に記載されていない材料等を採用する場合は、事前に監督職員の承諾を得ること。
- 設計基準については、別紙1に定める基準に準じること。
- 設計図の編集及び表題は、監督職員の指示による。
- 設計に当たっては、指示した工事概算予算を検討の上進めること。
- 設計原図の大きさは、A1又はA2とする。(原則として、新築等A1、改修等A2とする)
- 設計図書の作成における特記事項は別紙2による。

IV. 官公署その他への手続き

・建築基準法第18条第2項の規定による計画通知、三重県ユニバーサルデザインのまちづくり推進条例に基づく通知書等その他工事に必要な諸管署への手続きは、受託者において行うものとする。なお、計画通知の申請にかかる、初回の申請手数料については、委託者の負担とする。ただし、申請内容の不備等により再申請が必要となった場合の手数料は、受託者の負担とする。なお、申請までを委託工期内に行うものとし、申請に伴う指摘事項の修正、確認済証の交付については受託者の責任において行うこと。

中高層条例における標識看板の作成、設置及び設置報告書等の届出は、受託者負担にて行うこととする。

V. その他

1. 設計図書は設計業務の完了後も受託者において改変することなく管理するものとする。
2. 受託者は設計業務終了後も、設計図書の疑義等必要が生じた場合は随時委託者との協議に応じるものとする。
3. 一部下請け(再委託)については事前に監督職員へ届け出、承諾を得た上で決定すること。

VI. 設計者への提示資料

- (1)既設図面:原図あるいは現場製本
- (2)体育館 建築CADデータ(一部)

(注1)添付された既設図面については、改修等により現況と一致しないことがあるため、現地調査を行うこと。

VII. 履行遅延による遅延金及び契約解除について

(1)本業務の成果品は別表1の提出期限までに提出すること。

なお、委託者の責めに帰すべき理由がある場合を除き、「別表1」及び「別表2」の各期限までに成果品の提出がない場合は、委託契約書第43条、第44条及び45条に基づき契約の解除に関する協議を行うこととする。

(2)最終成果品は、工事発注を行ううえで必要な情報を網羅し、図面、数量算出書、数量調書等の整合が図れたものを履行期間内に提出すること。

なお、委託者の責めに帰すべき理由がある場合を除き、履行期間内に業務が完了することができない場合には、委託業務契約書第52条に基づく損害賠償請求等に関する協議を行うこととする。

別表1 成果品一覧 (○印を適用する)

	成果品	提出部数	提出期限	形態
基本設計	建築計画概要書 基本設計図 設備設計概要書	各部	令和 年 月 日	
実施設計	○ 建築設計図 ○ 電気設備設計図 ○ 機械設備設計図 外構図	各1部	既設図(現場調査写真) 令和 8年7月29日 (詳細の提出日は別表2による) 改修計画図 令和 8年8月5日 (詳細の提出日は別表2による) 実施設計図 令和 8年10月7日 (詳細の提出日は別表2による) 最終成果品 令和 8年12月9日	A3白焼き 及び PDF 提出時の現場立会い (有)
	構造計算書 山留構造計算書 設備設計計算書	各部	別表2による	
	○ 積算数量算出書 ○ 積算数量調書 ○ 概算工事費	各1部 1部	別表2による 令和 8年 8月 26日	積算数量調書の作成は、営繕積算システムRIBC2(一般財団法人建築コスト管理システム研究所)によること。 概算工事費算出時はRIBC2以外の使用も可とする。
	建設計画概要書	各部	令和 年 月 日	
	透視図 模型	各部	令和 年 月 日	
	計画通知関係図書の 申請・届出	適宜	令和 年 月 日	申請・届出等に係る修正等の期間を含む。
	共通	○ アスベスト調査箇所報告書	各1部	令和 8年7月1日

(注1)設計図及び積算内訳書等でOA化されたものは、元データ形式以外にPDF形式も合わせてCD-ROM等に保存し提出すること。

(注2)設計図は、原則としてCAD入力とし、市使用のCADソフト(JW CAD)で読み可能な形式とする。(他の形式から変換した場合は、元データと比較して文字、線種、寸法及び縮尺等に誤りがないことを確認すること。なお、誤りがあった場合は監督職員の指示により受託者は修正を行うこと。)

(注3)各提出期限は、受託者による内容の照査が終了した状態の図書を提出する期限とする。

なお、各提出期限に提出された設計図面の承認日については、監督職員の確認及びそれに伴う内容訂正など設計内容の精査が終了した時点とし、実施工程表作成時に監督職員と協議し決定する。

また、改修計画図及び実施設計図については、便所、防水、外壁、内装など各工種別に提出期限及び承認日を設定して実施工程表を作成し、監督職員の承認を得ること。

(注4)設計を行ううえで必要な納まり、仕上等の打合せは、受託者が必要に応じて、監督職員に適宜申し出を行うこと。なお、打合せが行われずに設計図が提出された場合は、受託者は監督職員の指示により、修正、図面の追加を行うこと。

(注5)見積書においては、原本(印入り、日付あり)を提出すること。また、見積条件は図面及び各社整合しているか十分確認すること。なお、見積書は原則3社以上取り、比較検討すること。

(注6)提出された成果物については、施工図の作成等のため当該施設に係る工事の受注者等に貸与し、使用することがあります。

(注7)アスベスト調査箇所報告書は、監督職員と協議の上、アスベスト含有の可能性のある箇所について、平面図及び写真等にて報告すること。

(注8)図面にはA3印刷時の縮尺を併記すること。

○本業務について、受託者は、業務の対象である施設の設計内容及び業務の実施内容が以下に掲げる技術基準等に適合するよう業務を実施すること。

<共通>

- ・官庁施設の基本的性能基準
- ・官庁施設の総合耐震・対津波計画基準
- ・官庁施設の総合耐震診断・改修基準
- ・官庁施設の環境保全性基準
- ・官庁施設のユニバーサルデザインに関する基準
- ・ユニバーサルデザインのまちづくり施設 整備マニュアル(三重県)
- ・四日市市景観計画(H20)
- ・建築物解体工事共通仕様書・同解説
- ・公共建築工事積算基準
- ・公共建築工事標準単価積算基準
- ・公共建築工事共通費積算基準
- ・公共建築設計業務委託共通仕様書
- ・官庁施設の設計業務等積算基準・同要領

<建築>

- ・建築工事設計図書作成基準
- ・公共建築工事標準仕様書
- ・公共建築改修工事標準仕様書
- ・公共建築木造工事標準仕様書
- ・敷地調査共通仕様書
- ・建築設計基準
- ・建築設計基準の資料
- ・建築構造設計基準
- ・建築構造設計基準の資料
- ・木造計画・設計基準
- ・木造計画・設計基準の資料
- ・構内舗装・排水設計基準
- ・構内舗装・排水設計基準の資料
- ・建築工事標準詳細図

<建築積算>

- ・公共建築数量積算基準
- ・建築工事内訳書(市指定の様式)

<建築設備>

- ・建築設備工事設計図書作成基準
- ・公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)
- ・公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)
- ・公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)
- ・公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)
- ・公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)
- ・公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)
- ・建築設備計画基準
- ・建築設備設計基準
- ・雨水利用・排水再利用設備計画基準
- ・建築設備耐震設計・施工指針
- ・建築設備設計計算書作成の手引き

<建築設備積算>

- ・公共建築設備数量積算基準
- ・建築設備工事内訳書(市指定の様式)

※上記基準等の改訂年度については、最新のものを採用すること。

あさけプラザ体育館空調設備新設工事ほか設計業務委託 特記仕様書

1. 業務概要

本設計業務委託は、あさけプラザの体育館に空調設備を新設する工事と、管理棟及びホール系統の空調設備を更新する工事の実施設計を行うものである。

2. 工事概要

① 体育館空調設備

アリーナ 空調設備新設

観客席 空調設備新設

役員室 空調制御盤改修

管理棟 集中リモコン新設

上記に伴う建築・機械設備・電気設備工事一式

② 管理棟及びホール系統空調設備

管理棟系統冷温水発生機 1 基更新（ホール棟屋上に設置）

ホール棟系統冷温水発生機 1 基更新（ホール棟屋上に設置）

冷温水発生機用膨張タンク 2 基更新（ホール棟屋上に設置）

冷温水発生機用配管及び配架台・歩廊・電線・電線管更新

動力盤、制御盤等更新

上記に伴う建築・機械設備・電気設備工事一式

3. 特記事項

① 体育館空調設備

・ 主な方針

パッケージ型エアコン停電対応システム搭載型とする。

体育館の使用用途（例：バドミントン 風速 0.2m/s 以下 等）に留意した機種選定とする。

停電対応として、電源自立型を選択することにより、商用電源が停電した場合も、ガスが供給されていれば運転できるようにし、100V電源としてコンセント等へも供給できるようにする。

給電先は、携帯電話の充電やコンセントLED照明程度を想定している。

改修計画図は、本方針に沿った機器仕様及び系統図を提出する。

・ 熱源比較

熱源は、ガス（都市ガス）と電気式をインシヤルコスト、ランニングコストについて比較する。

停電時の運用時間は、ガス式、電気式共3日（72時間）とする。

なお、インシヤルコストを算出するにあたって、次の点に留意する。

ガス式は、必要となる都市ガス配管工事を見込む。

電気式は、既設キュービクル（屋上）に増設スペースがないこと、非常用発電設備に当該設備の電気容量が見込まれていないこと、非常用発電設備用燃料槽が既設にはないことを条件に盛り込む。

改修計画図作成に先立ち、熱源比較は、令和 8 年 7 月 2 2 日までに提出する。

- 改修計画図

熱源比較により決定した機器表及び室内機・室外機の設置場所を図示する。

室内機は、取り付け高さも矩形図に図示する。

室内機・室外機に求められる付属品（防球ガード等）についてとりまとめる。

観客席用空調設備を含む。

- その他事項

室外機設置位置は埋設配管・埋設物に留意し、既設配管の迂回を見込む。

騒音規制法に基づき敷地境界における施設全体の既設及び新設空調設備の合成騒音を算出し適切な防音設備を設ける。

必要に応じ受変電設備の改修を含む。

役員会及び管理棟委託員室にて空調設備の操作・管理ができるようにする。

役員室及び棟委託員室の空調制御盤改修を含む。

樹木の伐採伐根が必要な場合は、施設管理者と協議し報告書（平面図及び写真付）を提出する。

ガス配管工事は別図で作成する。

空調設備の能力は、建築設備設計基準等に基づき次の条件の負荷計算により、能力を決定する。

利用者数は次のとおりとする。

計算根拠は、エクセルデータにて提出する。

空調設備の能力計算書の提出日は、改修計画図提出時とする。

利用者数

部 屋 名	人 数 [人]
アリーナ	1 0 0
観客席	5 0

② 冷温水発生機更新

冷却塔は、既設流用する。

冷温水ポンプは、既設流用とする。

系統図を作成し、改修部分を明示できるようにする。

系統図はダクト図・配管図・電気計装系統図を作成する。

防水改修工事も本業務に含む。

冷温水配管や電線・電線管類は、屋上に敷設の物はすべて更新する。

ガス配管工事は別図で作成する。

4. 共通事項

別途貸与する既設設計図面等を参考に、十分現地調査を行い、既設図面を作成する。

現地調査による写真を提出する。提出時期は、既設図の提出時期とする。

改修箇所について、アスベストの含有が見込まれる箇所について、図面及び写真にて報告する。

なお、施設管理者より貸与された分析結果をもとに新規で分析調査が必要な箇所を明示する。

分析調査が必要な場合は別途、委託者側で行う。

関係法令の手続きが必要な場合は、設計図に明示する。

仮設計画については、実行可能な計画を施設管理者と調整のうえ作成する。

概算工事費提出時には、主要機器の見積書を複数社提出し、納期と共に報告する。

5. 積算数量算出書及び積算数量調書

※設計書は、工事ごとに作成する。

① 積算数量算出書

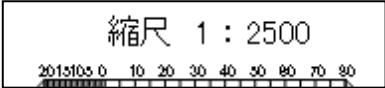
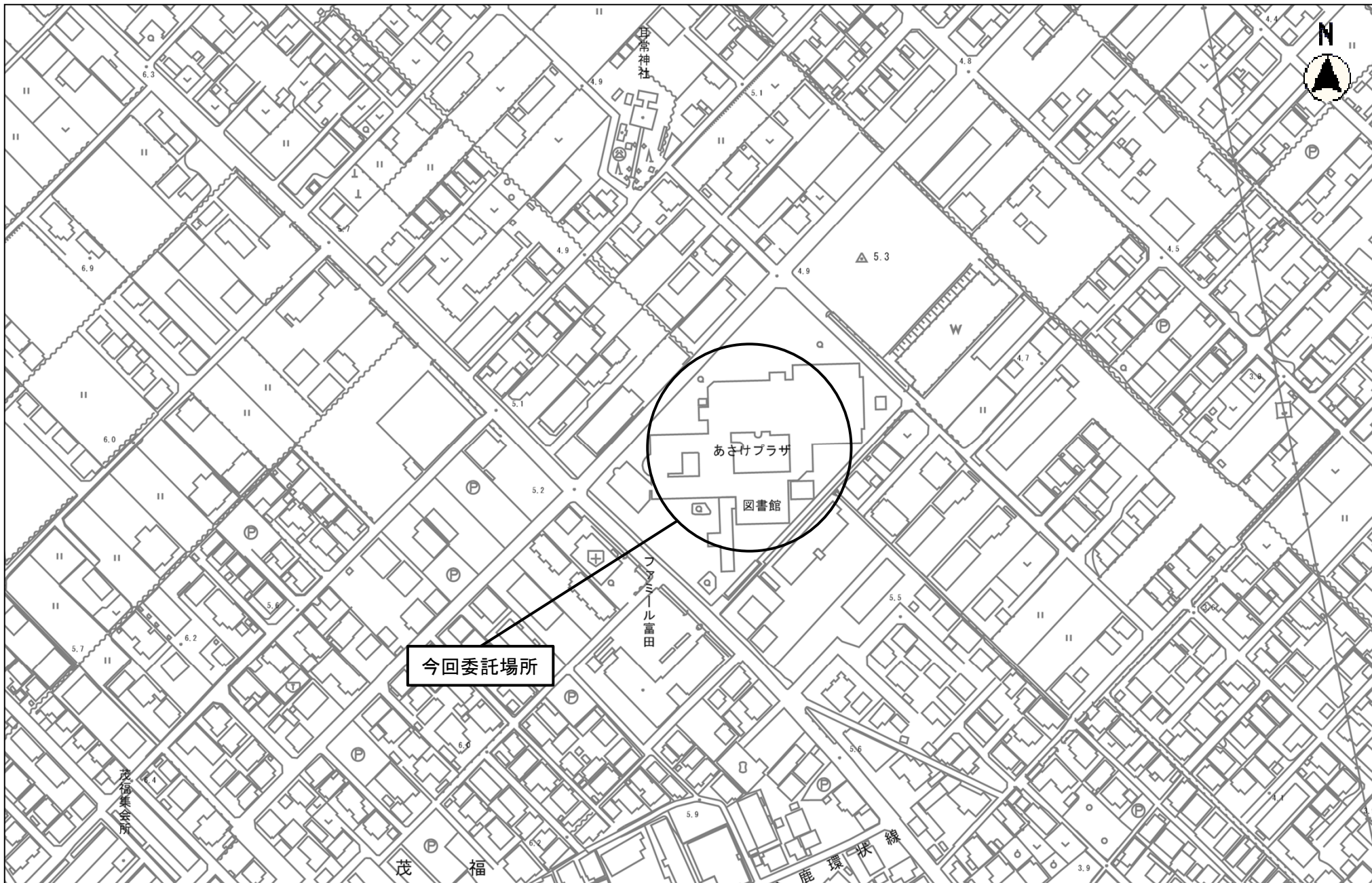
- ・ 調書の書式や作成要領について、事前に監督職員と協議し指示に従う。
- ・ アスベスト含有建材の数量は、その他の廃材とは別項目にて計上する。

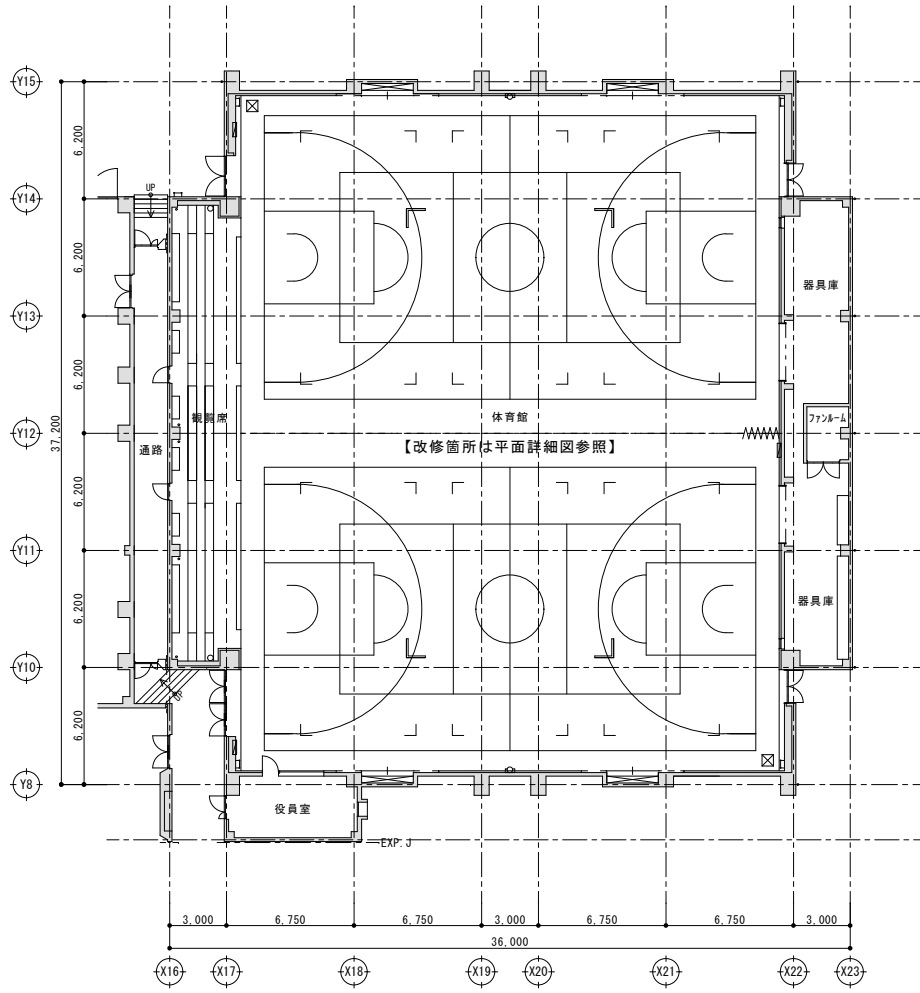
② 積算数量調書

- ・ 調書の作成は、R I B C 2により行うこと。
なお、基本的な構成については、別途監督職員と協議のうえ決定する。
- ・ R I B C 2は受託者の負担により、期限付きライセンスを取得する。なお、ライセンス期間は最小限となるよう業務を実施し、延期等が発生した場合の料金は、受託者の負担とする。
- ・ R I B C 2による調書の作成要領等については、事前に監督職員と協議し指示に従う。

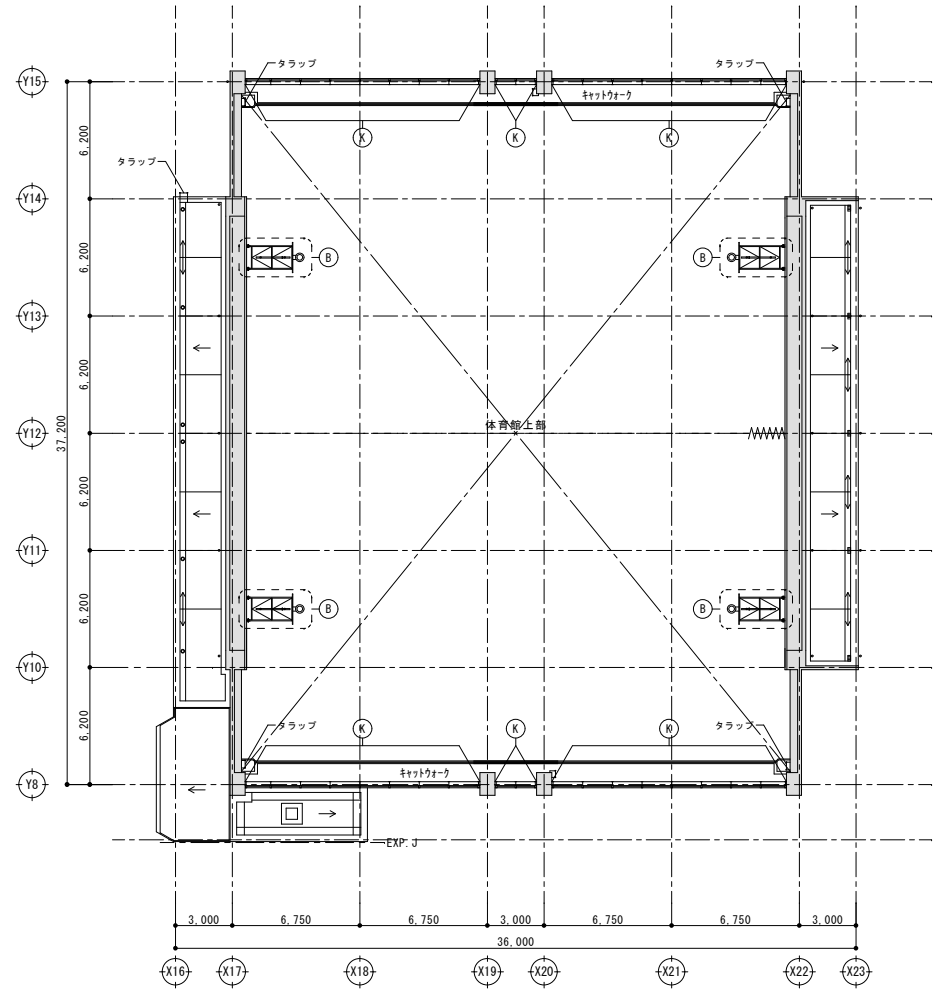
① 見積りについて

- ・ 見積りは原則3社以上とする。
- ・ 見積りの宛名は「四日市市長」とする。
- ・ 見積り依頼する場合は、見積り項目設計書を作成して依頼するなど、提出された見積り内容が同様の仕様であり、比較ができるようにする。
- ・ 見積り比較表及び見積り業者リストを作成する。
- ・ 見積り調整率については監督職員と協議のうえ決定する。なお、特殊な工事等に関しては市場状況を調査のうえ適切な調整率を提案する。
- ・ 専門工事業者に見積りする場合は、原則、その工事を直接受注した実績があること。総合建設業主体の業者による見積りは不可とする。
- ・ 法定福利費は別途一式で計上するのではなく、各項目に含むよう指示する。

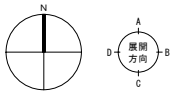


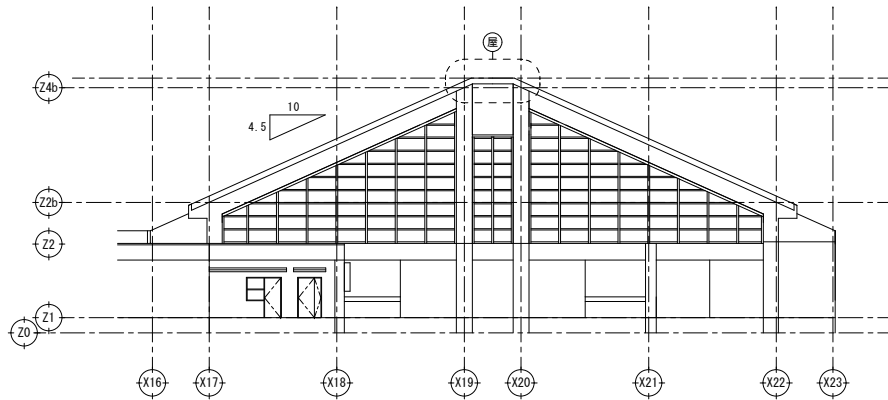


1階平面図
1/200

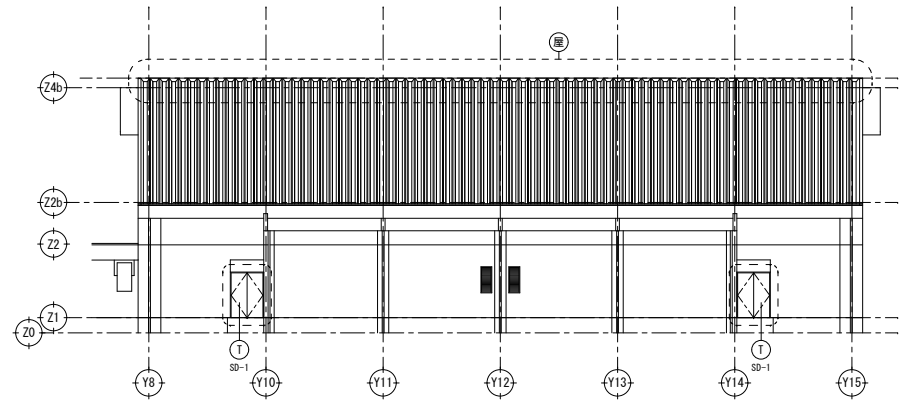


キョットウオーク平面図
1/200

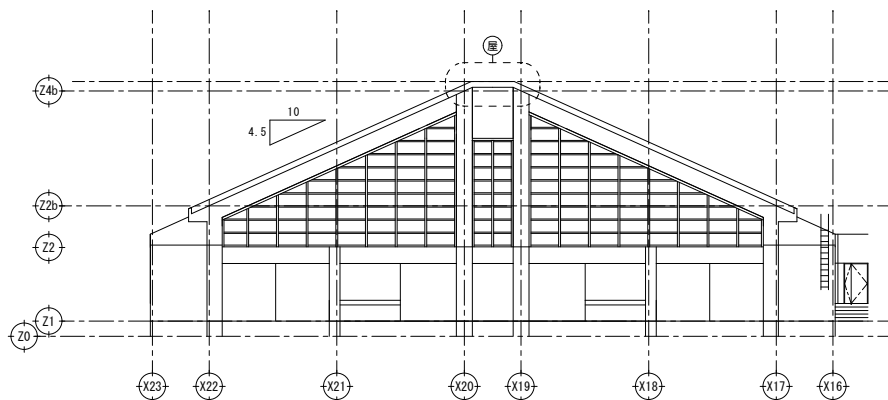




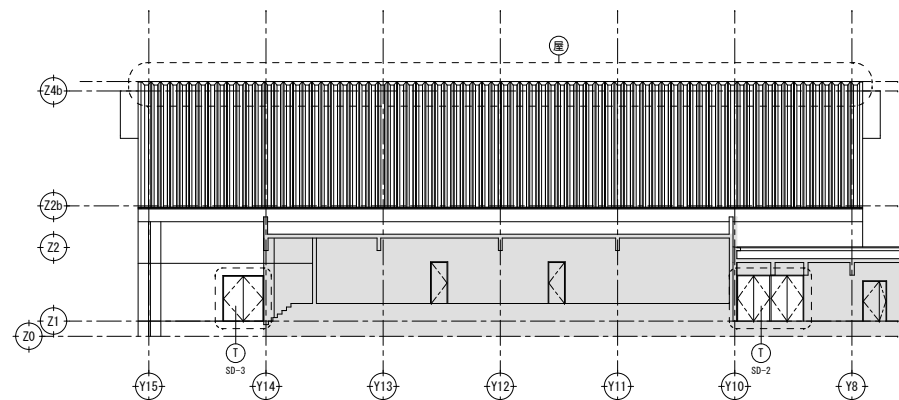
南側立面図
1/200



東側立面図
1/200



北側立面図
1/200



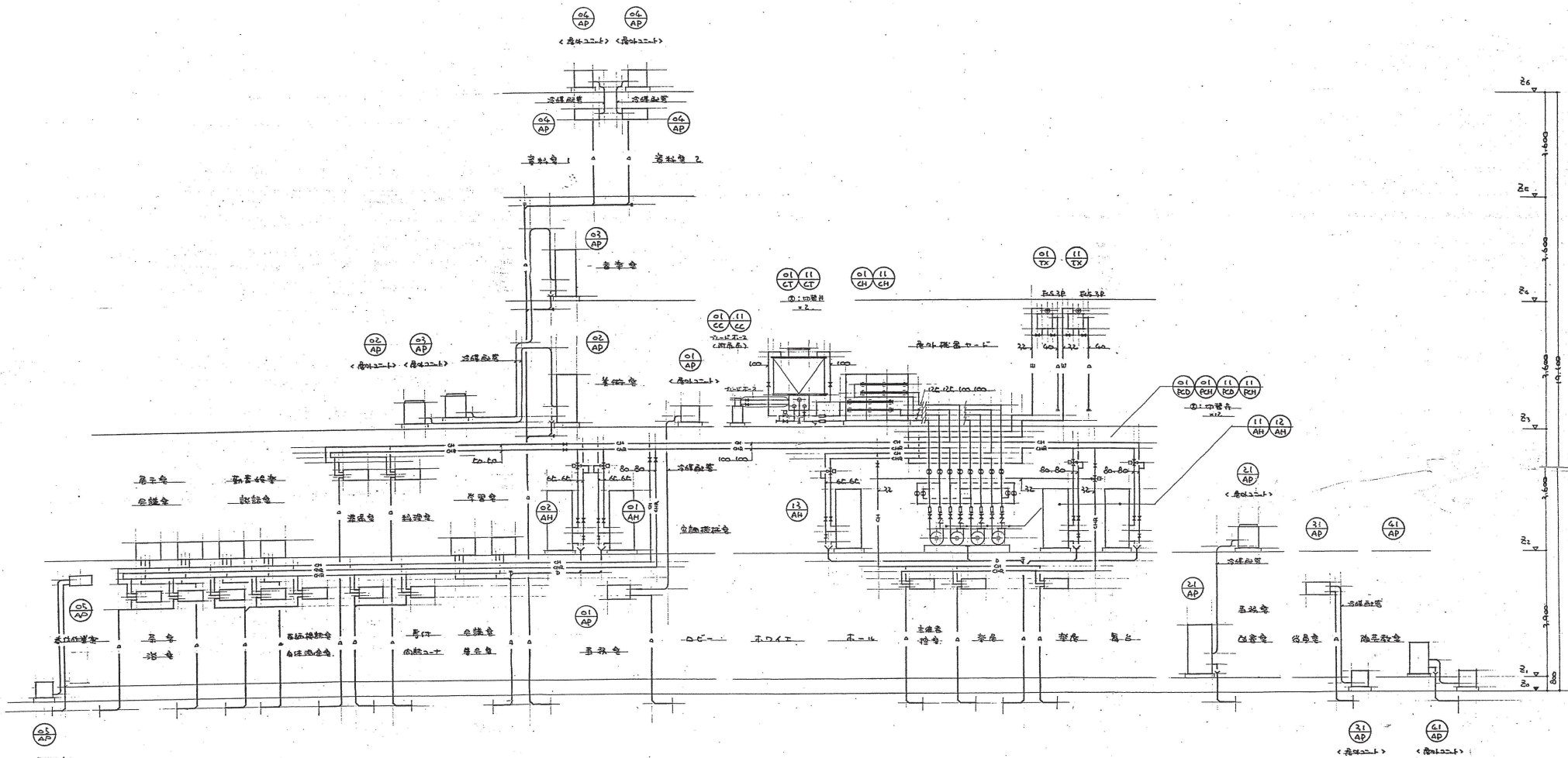
西側立面図
1/200

機 器 表			※ 電気容量は 13°200' 60°N 付近		
符号	機 器 名	形 式	仕 様	電気容量 * 数	備 考
CH-01	二重加用 直接冷温水機 (新 青 島)	カ2変 屋外設置	コンパクト型 220V 50V (30 x 30 x 20) 冷房能力 80 kW 冷温水量 730 L/min 冷温水圧 1.300 kg/cm ² (32 ~ 38°C) 加温容量 1.300 kW (使用加温容量 1.000 kW (40%)) 加温容量 1.300 kW (使用加温容量 1.000 kW (40%)) 外部運転 (停止 故障時点 及び 感温器 による 停止 回路 あり) 耐震強度 1G	消費電力 3.300 kW	コンパクト基礎 (建築工事) 防振架台 (270 x 270 x 100) 二次側電気工事工事 三位自動制御 (但し) 比別制御性 270 x 270 x 100 80 V (使用 750 V)
CH-11	二重加用 直接冷温水機 (新 青 島)	カ2変 屋外設置	コンパクト型 220V 50V (30 x 30 x 20) 冷房能力 80 kW 冷温水量 730 L/min 冷温水圧 1.300 kg/cm ² (32 ~ 38°C) 加温容量 1.300 kW (使用加温容量 1.000 kW (40%)) 加温容量 1.300 kW (使用加温容量 1.000 kW (40%)) 外部運転 (停止 故障時点 及び 感温器 による 停止 回路 あり) 耐震強度 1G	消費電力 3.300 kW	コンパクト基礎 (建築工事) 防振架台 (270 x 270 x 100) 二次側電気工事工事 三位自動制御 (但し) 比別制御性 270 x 270 x 100 80 V (使用 750 V)
CT-01	冷 却 機 (CH-01 用)	FRP型	片型 10270 - 圧縮機型 塩素封入仕様 冷房能力 二重加用 80 kW 冷水量 1.300 L/min (32 ~ 38°C) 外気 WB 27°C 騒音 L _{eq} 吸込側 21 A20L66ボーン以下 耐震強度 1G	3.7 kW	コンパクト基礎 (建築工事) 防振架台 (270 x 270 x 100)
CT-11	冷 却 機 (CH-11 用)	FRP型	片型 10270 - 圧縮機型 塩素封入仕様 冷房能力 二重加用 80 kW 冷水量 1.300 L/min (32 ~ 38°C) 外気 WB 27°C 騒音 L _{eq} 吸込側 21 A20L66ボーン以下 耐震強度 1G	3.7 kW	コンパクト基礎 (建築工事) 防振架台 (270 x 270 x 100)
CC-01	冷却温水処理装置 (CT-01 用)		灌漑自動注入式 屋外用 ポンプ (200 W) 1.5 kW x 2 葉巻型 100 x 2 常連度自動 70 - 等排水自動 ON/OFF 制御 270 V 共	0.1 kW	コンパクト基礎 (建築工事) 基礎予備 100 x 2 PCD-01 と接続
CC-11	冷却温水処理装置 (CT-11 用)		灌漑自動注入式 屋外用 ポンプ (200 W) 1.5 kW x 2 葉巻型 100 x 2 常連度自動 70 - 等排水自動 ON/OFF 制御 270 V 共	0.1 kW	コンパクト基礎 (建築工事) 基礎予備 100 x 2 PCD-11 と接続
PCD-01	冷却水ポンプ (CH-01 用)	片吸込	300 Wポンプ 100 φ x 1300 mm x 170 mm	5.5 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
PCD-11	冷却水ポンプ (CH-11 用)	片吸込	300 Wポンプ 100 φ x 1300 mm x 170 mm	5.5 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
PEH-01	冷温水ポンプ (CH-01 用)	片吸込	300 Wポンプ 80 φ x 730 mm x 170 mm	3.7 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
PEH-11	冷温水ポンプ (CH-11 用)	片吸込	300 Wポンプ 80 φ x 730 mm x 170 mm	3.7 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
TX-01	廠 屋 水 槽 (CH-01 用)	円形	270 x 270 型 (SUS 304) 容量 400 ℓ 寸法 1000 φ x 1000 H x 200 750 W 型 他 別 品 一 式	1	保温付
TX-11	廠 屋 水 槽 (CH-11 用)	円形	270 x 270 型 (SUS 304) 容量 400 ℓ 寸法 1000 φ x 1000 H x 200 750 W 型 他 別 品 一 式	1	保温付

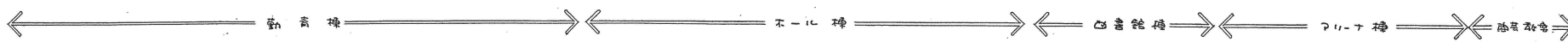
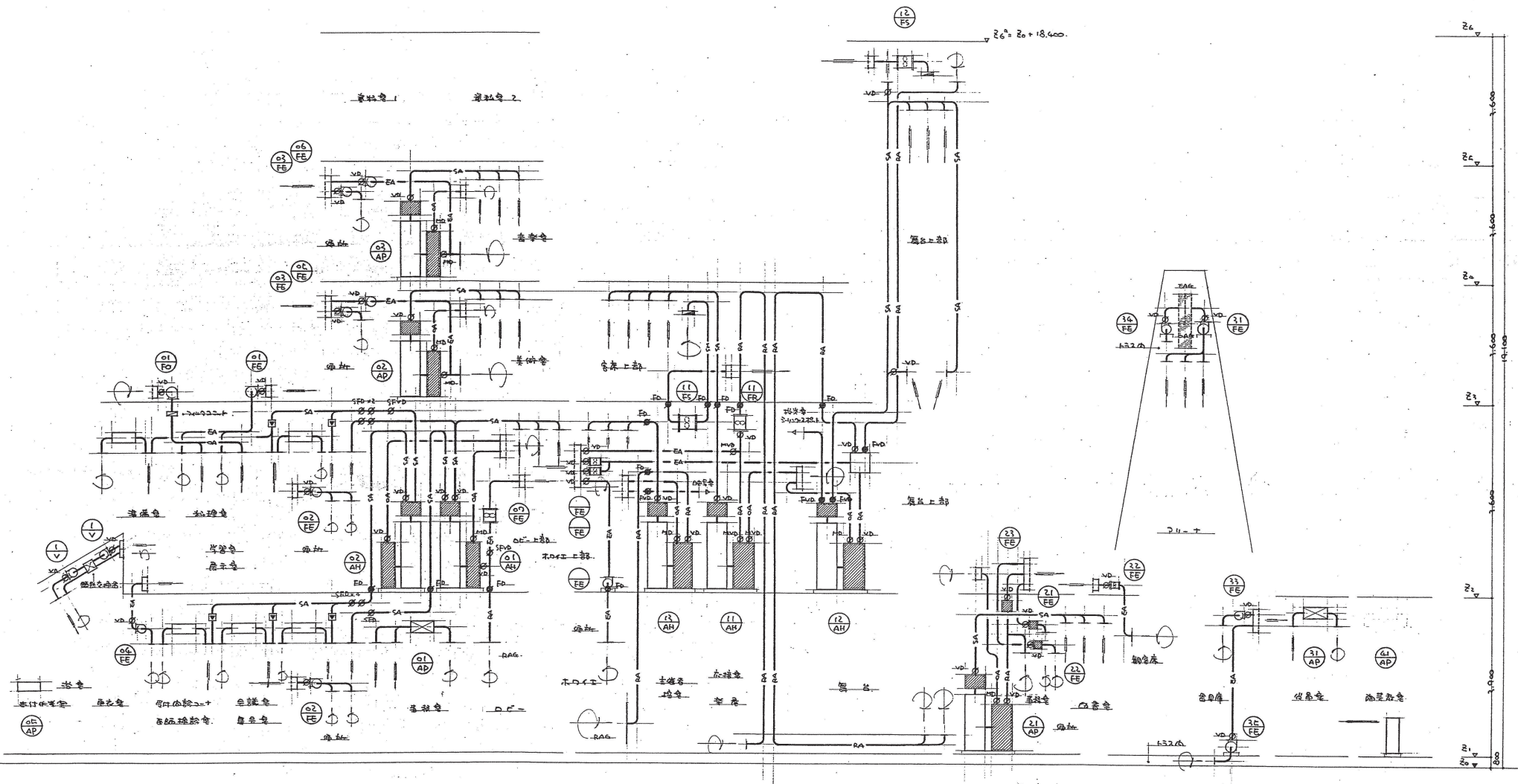
符号	機 器 名	形 式	仕 様	電気容量 * 数	備 考
	空 調 機	(注 意 条 件)	特記事項 (仕様 下記 に 依 存) 運転時 排気温度 50°C 以上 (270 x 270 x 100) 送風機 0.15 kW 以上 750 W 0.5 kW 以上 220V 交換機 効率 比色法 85% 以上 最終圧 (270 x 270) 高圧 270 x 270 x 100 高圧 加温容量 1.300 kW 冷房能力 50 x 270 x 100 1.5 kW 以上 270 x 270 x 100 加温容量 50 x 270 x 100 1.5 kW 以上		
AH-01	空 調 機 (0 区 系 統)	水辺型	No. 22 冷房能力 78.100 kW 暖房能力 78.400 kW 冷温水量 270 L/min 冷温水圧 1.7 x 2 型 6 別 送风量 19.200 cmm 静圧 60 mmHg 加温 1.300 kW (消費電力) 外気量 2.000 cmm	11.5 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
AH-02	空 調 機 (外 気 処 理)	水辺型	No. 9 冷房能力 57.700 kW 暖房能力 57.500 kW 冷温水量 220 L/min 冷温水圧 1.7 x 2 型 8 別 送风量 6.500 cmm 静圧 60 mmHg 加温 1.300 kW (消費電力)	3.9 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
AH-11	空 調 機 (0 区 系 統)	水辺型	No. 17 冷房能力 91.600 kW 暖房能力 96.400 kW 冷温水量 320 L/min 冷温水圧 1.7 x 2 型 8 別 送风量 13.500 cmm 静圧 60 mmHg 加温 1.300 kW (消費電力) 外気量 2.000 cmm	7.5 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
AH-12	空 調 機 (無 台)	水辺型	No. 3F 冷房能力 107.200 kW 暖房能力 106.600 kW 冷温水量 360 L/min 冷温水圧 1.7 x 2 型 6 別 送风量 2.800 cmm 静圧 70 mmHg 加温 1.300 kW (消費電力) 外気量 2.000 cmm	18.5 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)
AH-13	空 調 機 (0 区 系 統)	水辺型	No. 9 冷房能力 62.400 kW 暖房能力 64.600 kW 冷温水量 150 L/min 冷温水圧 1.7 x 2 型 6 別 送风量 7.600 cmm 静圧 70 mmHg 加温 1.300 kW (消費電力) 外気量 2.000 cmm	5.5 kW	コンパクト基礎 H=150 防振架台 (270 x 270 x 100)

符号	装置名	形式	仕様	定格容量	数	備考
FE-17	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 315φ × 2,000 ^{CHH} × 15 ^{mm-AF}	0.4kw	1	時定運転用
FE-18	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 315φ × 2,000 ^{CHH} × 15 ^{mm-AF}	0.4kw	1	時定運転用
FE-21	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 315φ × 1,400 ^{CHH} × 15 ^{mm-AF}	0.4kw	1	放風機付 AP-21付
FE-22	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 315φ × 1,000 ^{CHH} × 15 ^{mm-AF}	0.4kw	1	放風機付
FE-23	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 500φ × 4,100 ^{CHH} × 20 ^{mm-AF}	1.5kw	1	防振架台(2712)付
FE-31	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 430φ × 1,140 ^{CHH} × 20 ^{mm-AF}	2.2kw	2	防振架台(2712)付
FE-32	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 250φ × 2,600 ^{CHH} × 20 ^{mm-AF}	0.4kw	1	コンクリート基礎 H=150 防振架台(2712)付
FE-33	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 250φ × 1,200 ^{CHH} × 15 ^{mm-AF}	0.4kw	2	放風機付
FE-34	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 400φ × 5,000 ^{CHH} × 20 ^{mm-AF}	1.5kw	1	防振架台(2712)付 AP-34付
FE-35	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 250φ × 4,500 ^{CHH} × 20 ^{mm-AF}	0.4kw	1	コンクリート基礎 H=150 防振架台(2712)付
FS-11	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 175φ × 2,000 ^{CHH} × 40 ^{mm-AF}	0.75kw	1	給気
FS-12	排気機 (給気機用)	互斥型	軸流ファン 600φ × 14,700 ^{CHH} × 30 ^{mm-AF}	0.75kw	1	給気

符号	装置名	形式	仕様	定格容量	数	備考
VX-1	空調機	互斥型	570径 200° 400 ^{CHH} (給気機用) × 5 ^{mm-AF} 温度交換効率 74% 270°以上 270°以上 室内側は、標準型、パルス型、パルス型付	10100w	2	室内側は、標準型、パルス型、パルス型付
VX-2	空調機	互斥型	570径 100° 70 ^{CHH} (給気機用) × 4 ^{mm-AF} 温度交換効率 70%以上 270°以上 室内側は、標準型、パルス型、パルス型付	10100w	5	
V-1	排気機	互斥型	ミニコン220 100 ^{CHH} × 20 ^{mm-AF}	10100w	1	数量は、白紙に依る
V-2	排気機	互斥型	軸流ファン 100 ^{CHH} × 10 ^{mm-AF}	10100w	1	
V-3	排気機	互斥型	軸流ファン 100 ^{CHH} × 10 ^{mm-AF}	10100w	1	
V-4	排気機	互斥型	軸流ファン 570径 150° × 330 ^{CHH} × 4 ^{mm-AF} 室内側は、標準型、パルス型、パルス型付	10100w	1	
V-5	排気機	互斥型	軸流ファン 570径 150° × 190 ^{CHH} × 4 ^{mm-AF} 室内側は、標準型、パルス型、パルス型付	10100w	1	
V-6	排気機	互斥型	軸流ファン 200° × 290 ^{CHH} パルス型、パルス型付	10100w	1	
V-7	排気機	互斥型	軸流ファン 200° × 2,100 ^{CHH} パルス型、パルス型付	10100w	2	数量は、白紙に依る
CAV-01	定容量ユニット		100 ^{CHH} ~ 600 ^{CHH}			
CAV-02	定容量ユニット		100 ^{CHH} ~ 200 ^{CHH}			
CAV-03	定容量ユニット		100 ^{CHH} ~ 1,800 ^{CHH}			
HX-1	顕熱交換機 (給気機用)		702径 700 × 2100 × 2100 工法 500 × 500 × 1,100 ² 温度交換効率 58%以上		2	
V-8	排気機	互斥型	軸流ファン 700° × 1,400 ^{CHH} × 30 ^{mm-AF}	10100w	1	



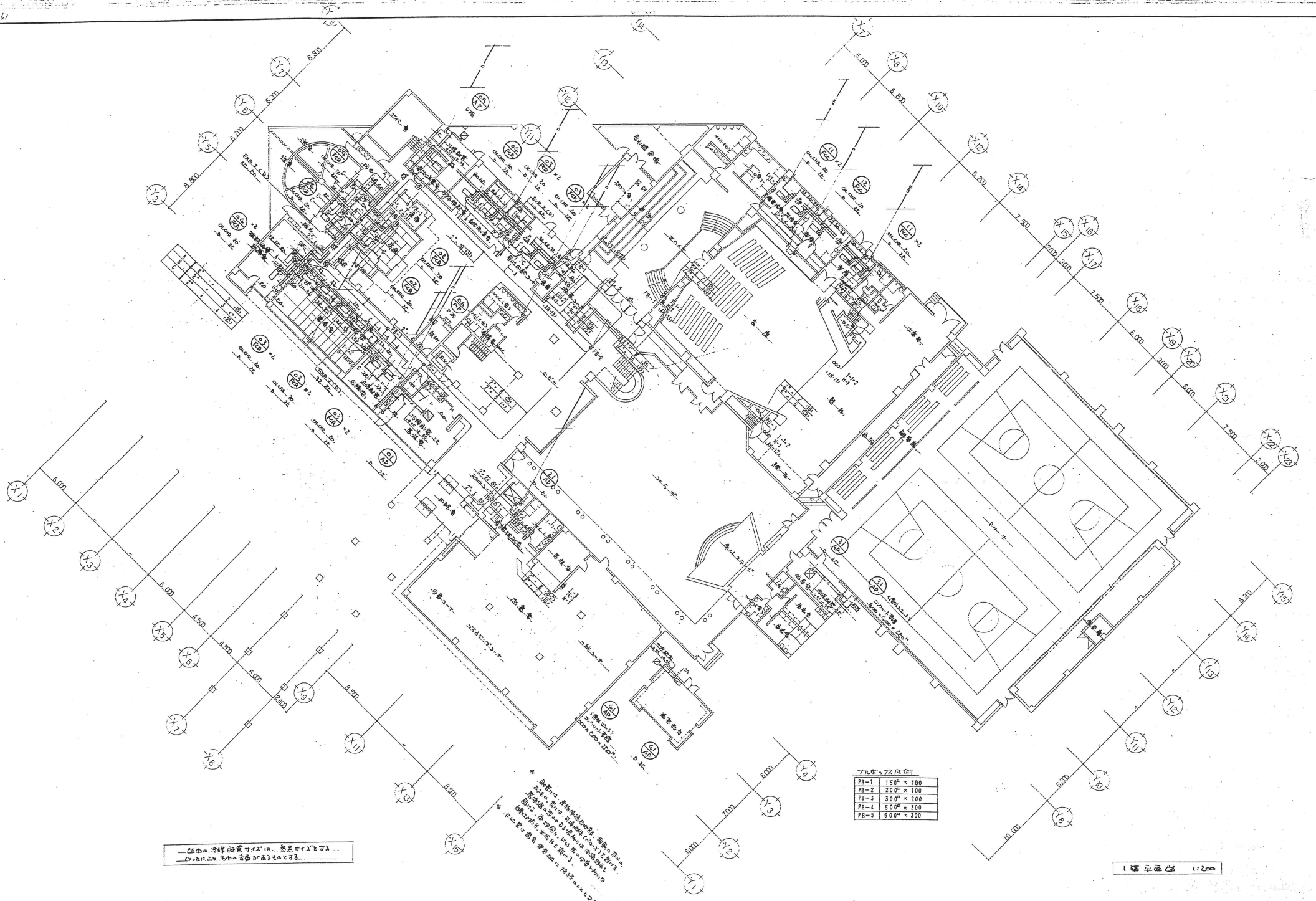
配管系統図



分岐系統図

右部計に明確な記号は主要機器とし、
左部には記号は4面図の記号と一致する。

名古屋	名古屋	(仮称)あさけリゾンプラザ建設工事
株式会社 梓設計	0077	分岐系統図
AC-9	No.	縮尺 / 昭和57年 月 日



— 5.5m 階層配管パイプは、各層パイプで
 — 5.5m 階層配管パイプは、各層パイプで

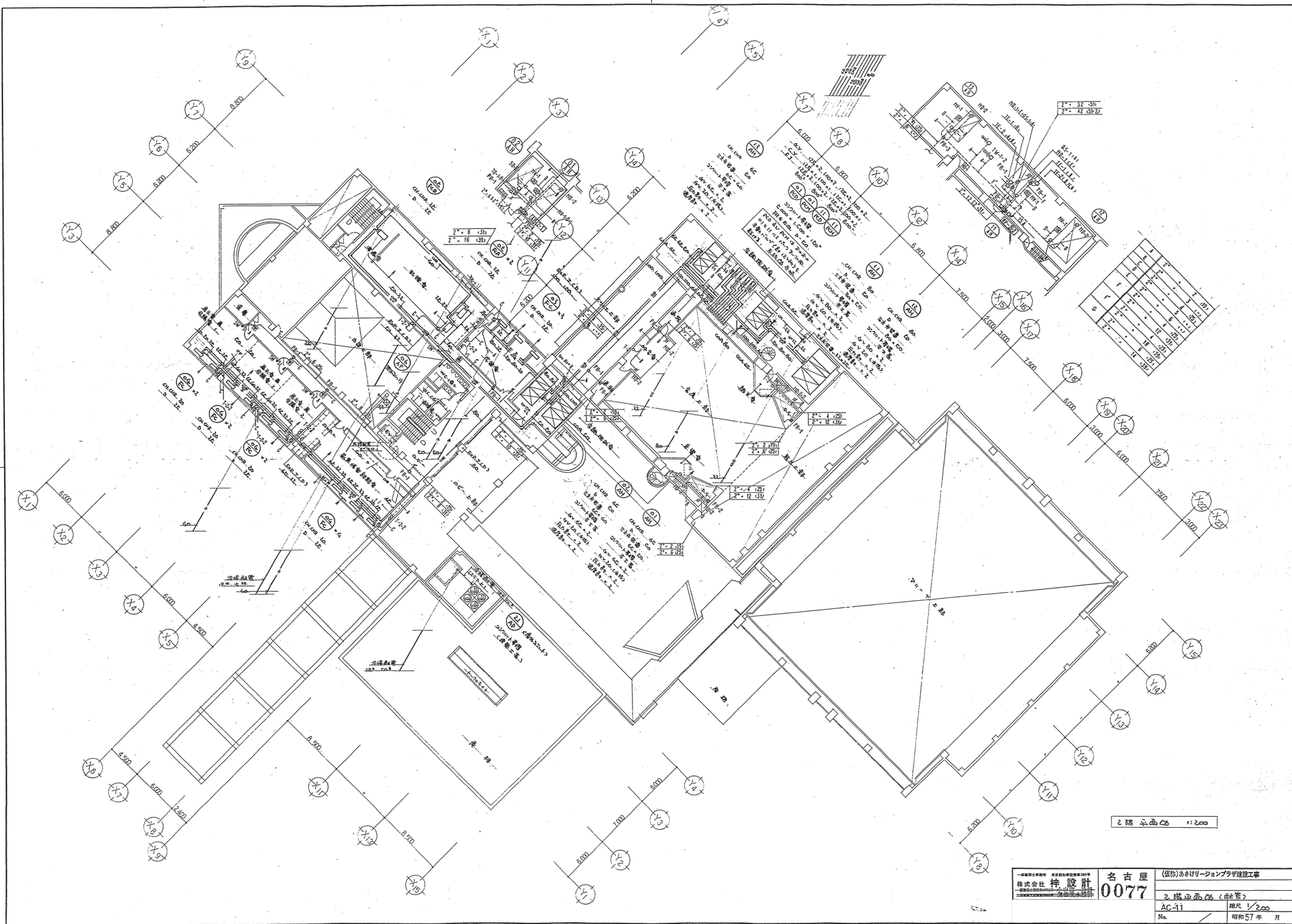
* 5.5m 階層配管パイプは、各層パイプで
 * 5.5m 階層配管パイプは、各層パイプで
 * 5.5m 階層配管パイプは、各層パイプで

天井吊り下げ照明

PB-1	1.50m x 100
PB-2	2.00m x 100
PB-3	3.00m x 200
PB-4	5.00m x 300
PB-5	6.00m x 300

1/2000

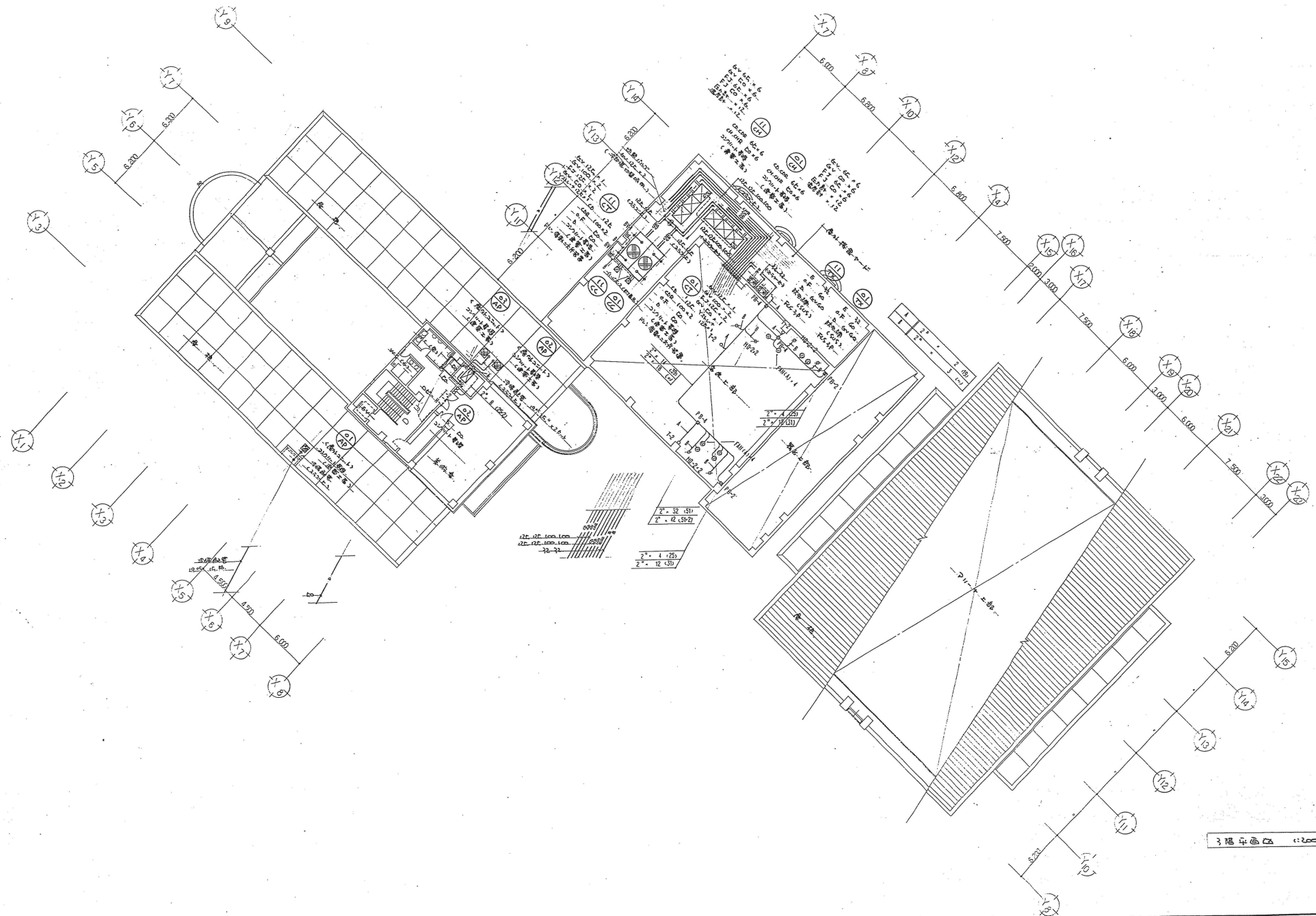
名古屋 0077	(仮称)あさけレジョンプラザ建設工事
	1階平面図 (配置)
AC-10	縮尺 1/2000
No.	昭和57年 月 日



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18

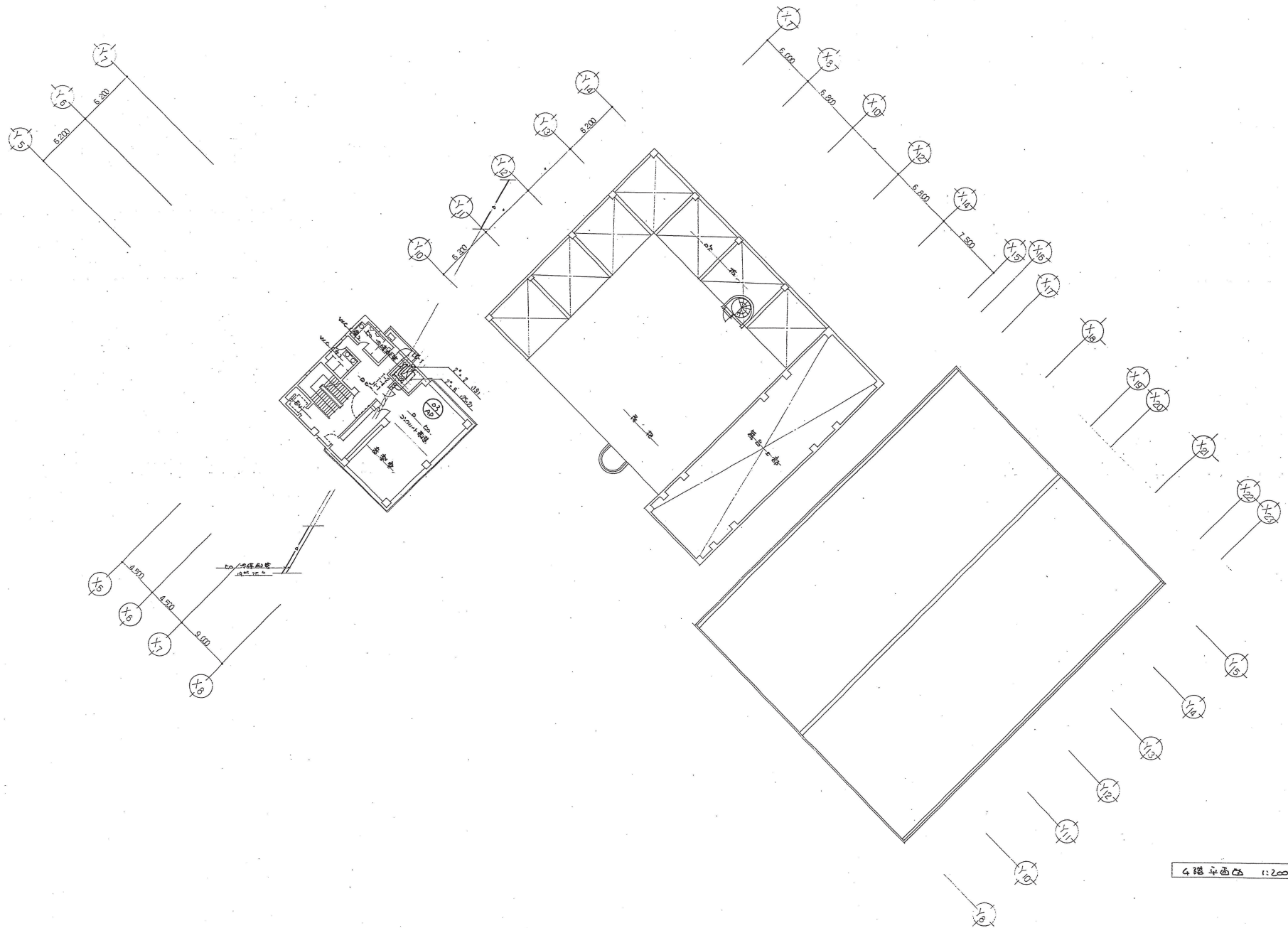
2階平面図 1:200

一級建築士事務所 株式会社 梓設計 〒460-0001 名古屋市中区錦3-1-1 TEL: 052-233-1111	名古屋 0077 No.	(仮称)あさけリージョンプラザ建設工事 2階平面図 (配管) 縮尺 1/200 昭和57年 月 日
---	--------------------	--



3階平面図 1:200

<small>一般建築士事務所 東京都中央区新富町三丁目</small> 株式会社 特設設計 <small>東京都中央区新富町三丁目</small>	名古屋 0077	<small>(仮称)あさけリージョンプラザ建設工事</small> 3階平面図 (配電) AC-12 縮尺 1/200 No. 昭和57年 月 日
---	---------------------------	---

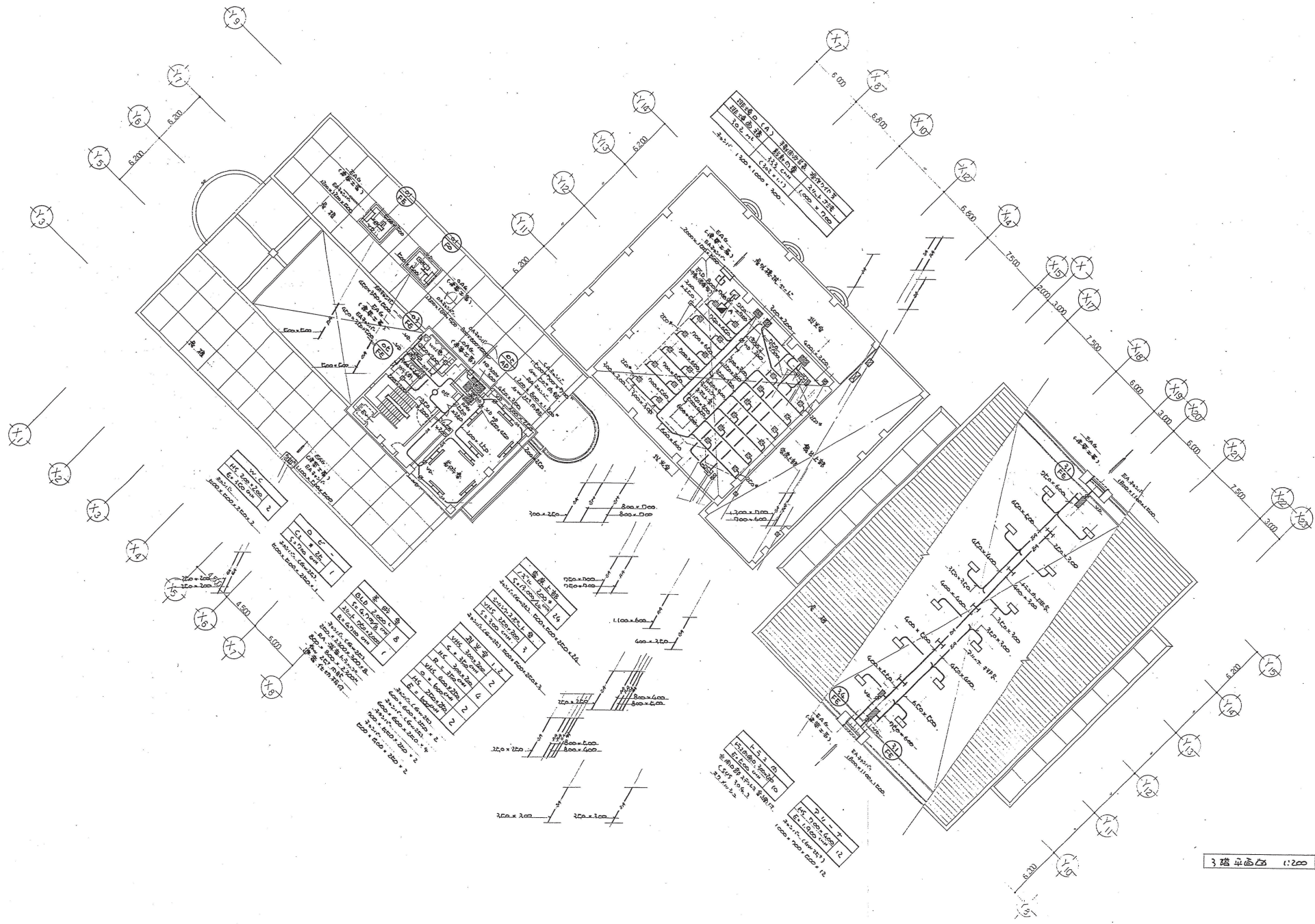


<small>一級建築士事務所 東京都中央区本町3-10-10 株式会社 梓設計</small>	名古屋	(仮称)あさけリノベーションプロジェクト
	0077	4. 構造面図 (配筋)
	AC-13	縮尺 1/200
	No.	昭和57年 月 日

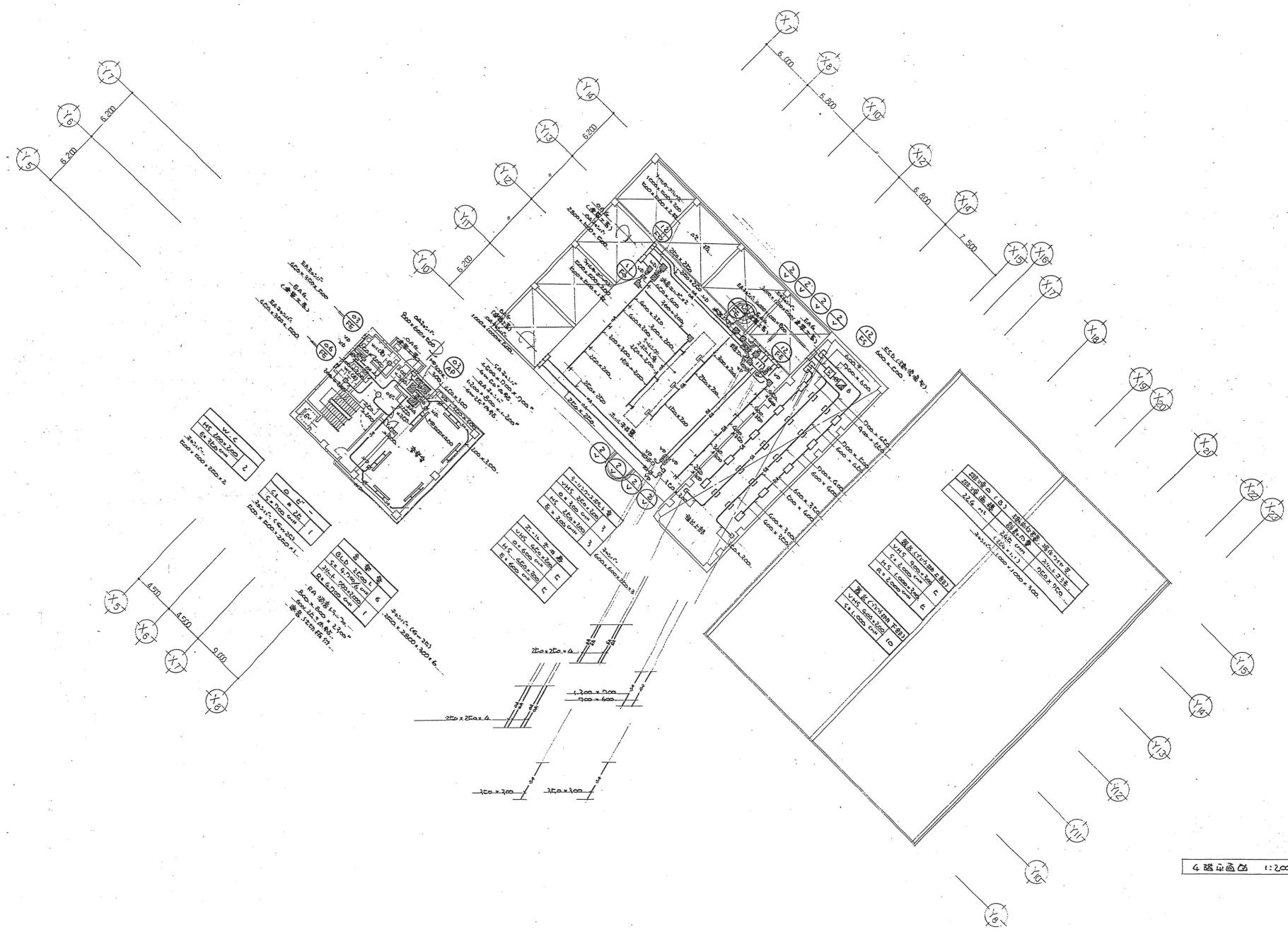


注記) 各部の構造角は、構造角面図で示す。
 一部は、ガラスの窓を使用し、構造角面図に示す。
 フレキシブルな窓を使用する。

一級建築士事務所 株式会社 株式会社 株式会社	名古屋 0077	(仮称)あけびリゾンプラザ建設工事 1階平面図(200)
No. AC-15		縮尺 1/200
昭和57年 月 日		日



3階平面図 1:200



1	10.000m x 10.000m
2	10.000m x 10.000m
3	10.000m x 10.000m
4	10.000m x 10.000m
5	10.000m x 10.000m
6	10.000m x 10.000m
7	10.000m x 10.000m
8	10.000m x 10.000m
9	10.000m x 10.000m
10	10.000m x 10.000m
11	10.000m x 10.000m
12	10.000m x 10.000m
13	10.000m x 10.000m
14	10.000m x 10.000m
15	10.000m x 10.000m
16	10.000m x 10.000m

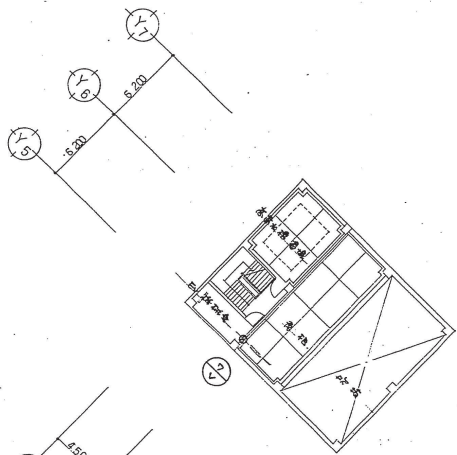
1	10.000m x 10.000m
2	10.000m x 10.000m
3	10.000m x 10.000m
4	10.000m x 10.000m
5	10.000m x 10.000m
6	10.000m x 10.000m
7	10.000m x 10.000m
8	10.000m x 10.000m
9	10.000m x 10.000m
10	10.000m x 10.000m
11	10.000m x 10.000m
12	10.000m x 10.000m
13	10.000m x 10.000m
14	10.000m x 10.000m
15	10.000m x 10.000m
16	10.000m x 10.000m

1	10.000m x 10.000m
2	10.000m x 10.000m
3	10.000m x 10.000m
4	10.000m x 10.000m
5	10.000m x 10.000m
6	10.000m x 10.000m
7	10.000m x 10.000m
8	10.000m x 10.000m
9	10.000m x 10.000m
10	10.000m x 10.000m
11	10.000m x 10.000m
12	10.000m x 10.000m
13	10.000m x 10.000m
14	10.000m x 10.000m
15	10.000m x 10.000m
16	10.000m x 10.000m

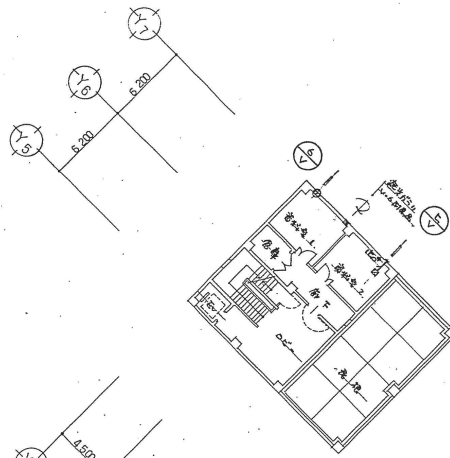
1	10.000m x 10.000m
2	10.000m x 10.000m
3	10.000m x 10.000m
4	10.000m x 10.000m
5	10.000m x 10.000m
6	10.000m x 10.000m
7	10.000m x 10.000m
8	10.000m x 10.000m
9	10.000m x 10.000m
10	10.000m x 10.000m
11	10.000m x 10.000m
12	10.000m x 10.000m
13	10.000m x 10.000m
14	10.000m x 10.000m
15	10.000m x 10.000m
16	10.000m x 10.000m

1	10.000m x 10.000m
2	10.000m x 10.000m
3	10.000m x 10.000m
4	10.000m x 10.000m
5	10.000m x 10.000m
6	10.000m x 10.000m
7	10.000m x 10.000m
8	10.000m x 10.000m
9	10.000m x 10.000m
10	10.000m x 10.000m
11	10.000m x 10.000m
12	10.000m x 10.000m
13	10.000m x 10.000m
14	10.000m x 10.000m
15	10.000m x 10.000m
16	10.000m x 10.000m

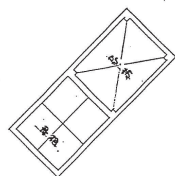
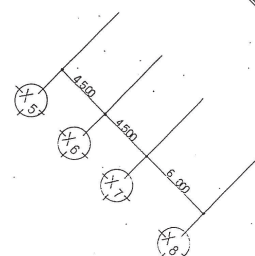
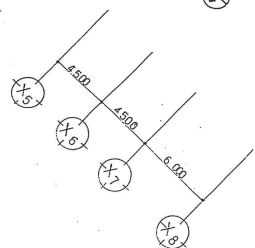
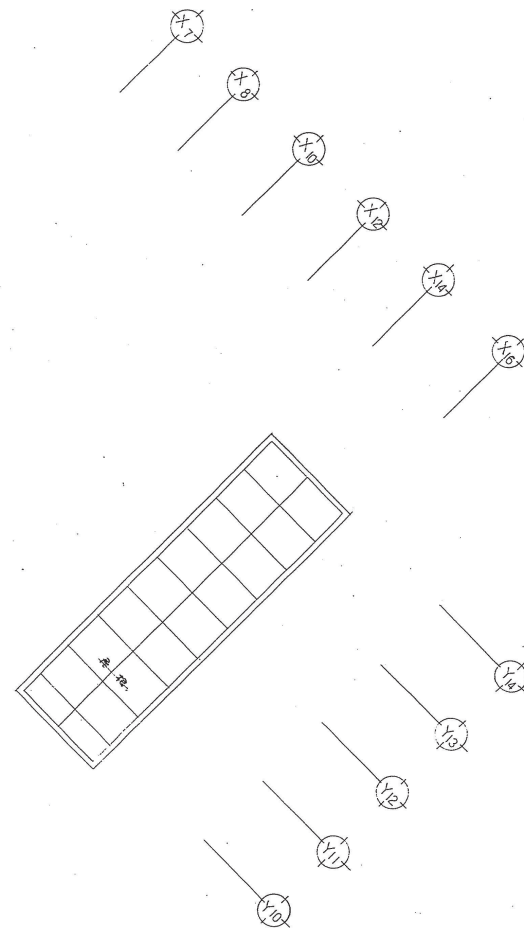
4階平面図 1:200



危険平面図 1:200



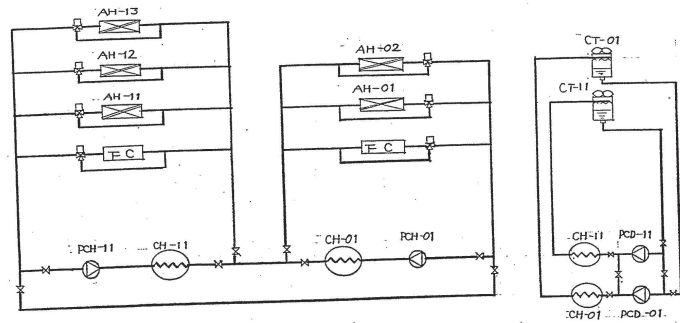
危険平面図 1:200



危険断面図 1:200



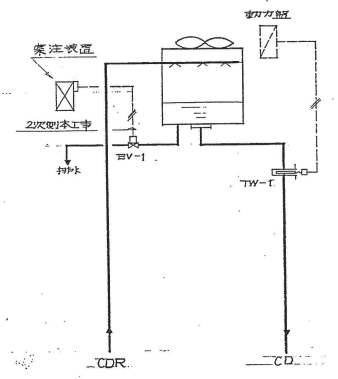
<small>一級建築士事務所 東京都中央区銀座1-10-10 株式会社 様 設計 〒104-0061 東京都中央区銀座1-10-10 株式会社 様</small>	名古屋	(仮称)あきけりーじョンプラザ建設工事
	0077	危険平面図、危険断面図、危険立面図(部分)
AG-19	縮尺 1/200	
No. /		昭和57年 月 日



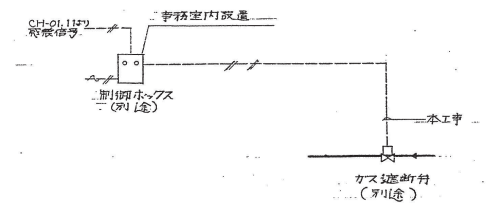
ホール棟

舞台棟

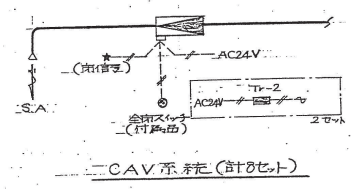
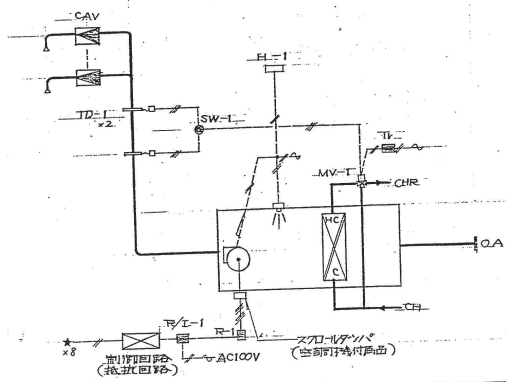
電源系統図



冷却塔系統(2セット)

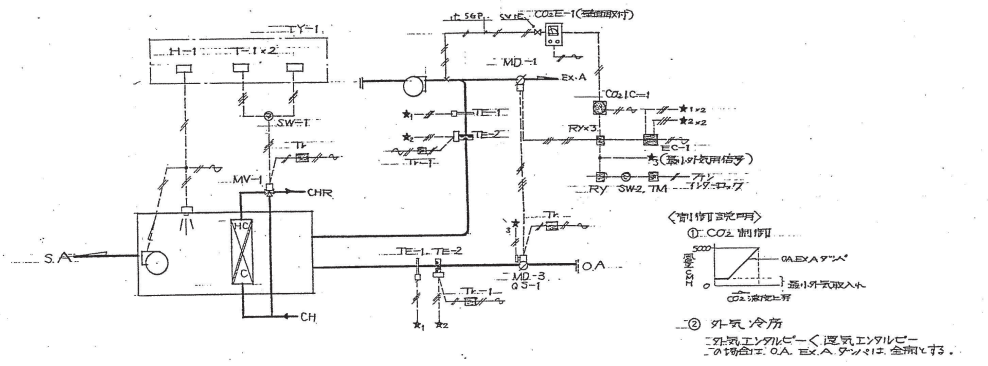


ガス導管二次側水工事

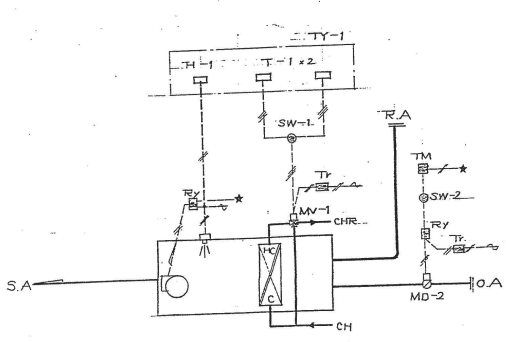


〔制御説明〕
 ① 各全開付 CAV= 風量= 対付抵抗の重みをつけ
 ② (の使用状況) に応じ、スローダウンの周波数を調節し
 ③ 風量制御を行う。

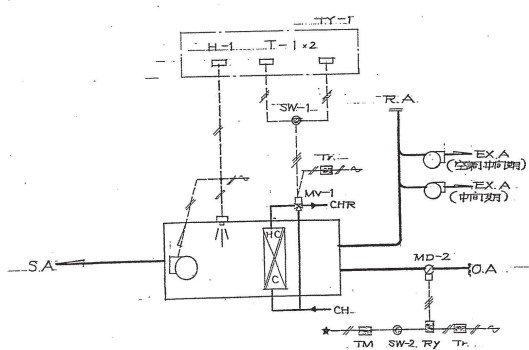
AH-02(外気処理)系統 AP-2-1



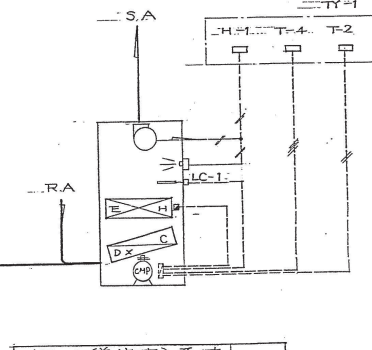
AH-11(ホール)系統 AP-2-2



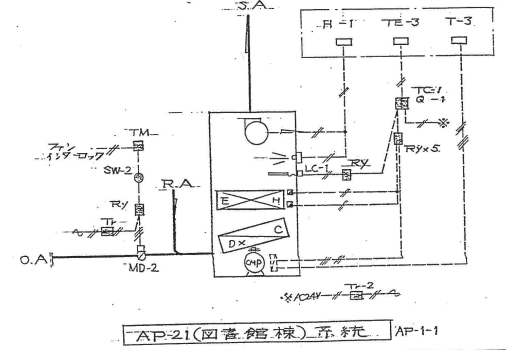
AH-01(ロビー)系統 2セット AP-2-1
 AH-13(ホール)系統 AP-2-2



AH-12(舞台)系統



AP-02(美術室)系統 2セット
 AP-03(音楽室)系統 2セット

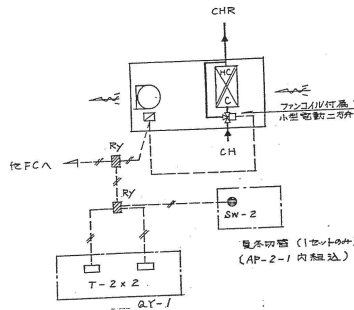


AP-21(図書館棟)系統 AP-1-1

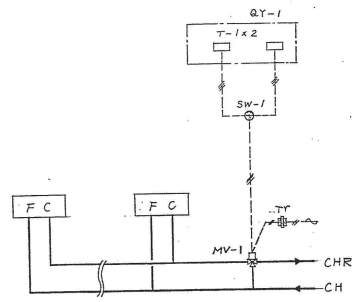
自動機器表

記号	型番	名称	備考
TE-1	L7025C	温度検出器	
2	SSP129B	"	再生シート SSP1298004付
3	T7090A	"	
TD-1	T991A	温度調節器	ホルダー付
TW-1	T675A	"	保護管付
T-1	T9065A	温度調節器	
2	T6065A	"	
3	T42G	"	
4	T42H	"	
TC-1	R7420A	温度調節器	
LC-1	L6008A	通熱防止サモ	ホルダー付
H-1	H615A	湿度調節器	
EC-1	W7540A	エンタルピー調節器	
CO2F-1	APBA-200Y	炭酸ガス温度感知器	
CO2IC-1	R7372C	炭酸ガス指示調節器	
RY-1	NAX101	抵抗/電流変換器	
R-1	R7165A	プロポーションリレー	
Q-1	Q642J	ステップコントローラ	
RY		補助リレー	
SW-1	APN2103	切換スイッチ	
2	APN2102	"	
Jr-1	ATN410J1	トランス	200/20.100VAC 40VA
2	ATN416J2	"	200/24VAC 200VA
QS-1	Q631A	補助スイッチ	
TM		タイマ	
TY-1	TY-110A	マルチサモケース	
QY-1	QY20A	マルチサモプレート	
MV-1	M904E	モジュトールモータ	トランス付
2	Q455C	ギョリキング	
3	V5065A	モーター	
BY-1	VY6100B	電動ボールバルブ	
MD-1	M904F(D)	モジュトールモータ	トランス付
2	Q605A	ダンパリングギョ	
MD-2	M604C	モジュトールモータ	トランス付
3	Q605A	ダンパリングギョ	
MD-3	M904E	モジュトールモータ	トランス付
4	Q605A	ダンパリングギョ	

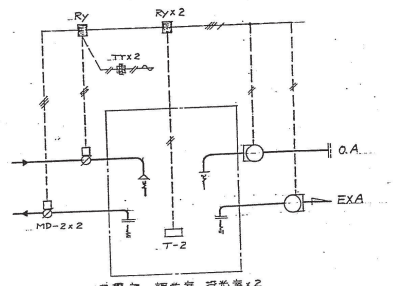
装置名	FC台数	機器個数	備考
1階全装置	2	2	1 2
・ 養命堂	4	2	1 3
・ 機械室	2	2	1 2
・ 脱衣室 x 2	1x2	2x2	1x2 2x2
・ 洗面	2	2	1 2
・ 身体測定室	3	2	1 3
・ 受付問診コナ	2	2	1 2
2階全装置	4	2	1 3
・ 展示室	2	2	1 2
・ " "	2	2	1 2
・ " "	3	2	1 2
・ 調理室	3	2	1 3
・ 学習室	3	2	1 3
合計	28	14	33



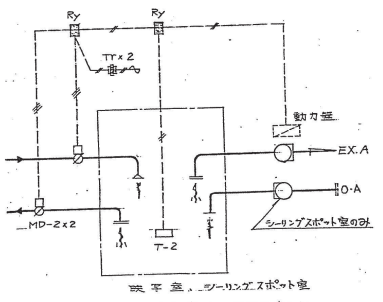
1階 1F
ファンコイル制御① (1階用) AP-2-2



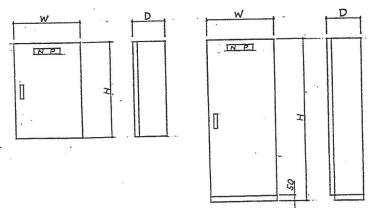
2階 2F
ファンコイル制御② (2階用) AP-2-2



1階 1F
冬季外気冷却制御① (1階用) AP-2-2



2階 2F
冬季外気冷却制御② (2階用) AP-2-2



寸法表 (形式及び寸法は参考とする)

名称	形式	寸法 (mm)			備考
		W	H	D	
AP-1-1	A	600	700	250	
AP-2-1	A	700	1300	250	
AP-2-2	B	600	1950	350	

制御盤要図

制御弁選定表

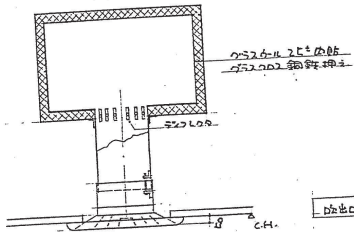
系統	弁形番	流体	流量	弁口径	ΔP	CV	弁寸法	備考
CT-01	V16100B	冷却水	—	—	—	—	32A	
CT-11	"	"	—	—	—	—	"	
AH-01	V5064A	冷温水	255 $\frac{m^3}{min}$	—	3mAg	33	50A	
02	"	"	225 "	—	"	29	40A	
11	"	"	320 "	—	"	41	50A	
12	"	"	360 "	—	"	46	"	
13	"	"	150 "	—	"	19	40A	

凡例

- : IV2"
- ~ : AC200V電源 (特記なき場合)
- : 制御室内組込み機器
- ▨ : リモボックス内組込み機器

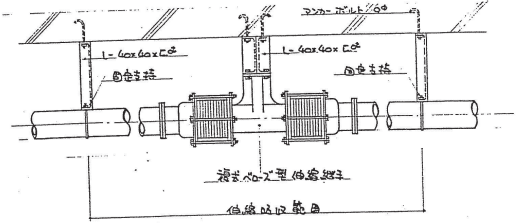
自動制御機器表 巻末図表とします

名古屋 (坂東)あきげリノベーション建設工事
 株式会社 特設設計
 0077
 自動制御設計図 (2)
 AC-23 相尺 /
 No. / 昭和57年 月 日

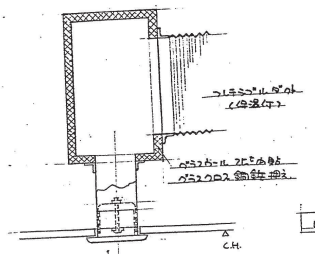


出口取付電線図 (c.1)

→ 本窓 出口
(SEB 5T)

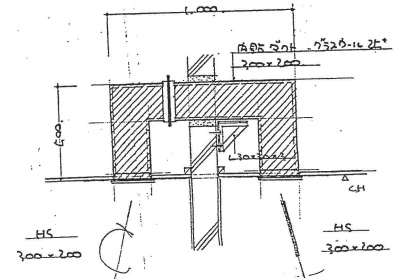


他種取付取付電線図

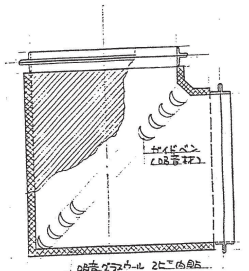


出口取付電線図 (c.2)

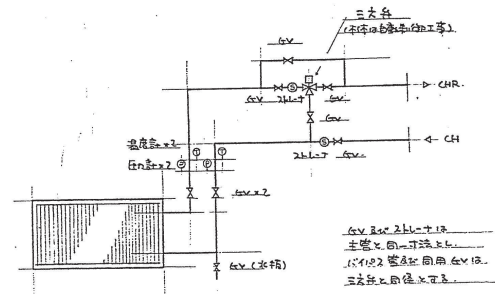
→ 本窓 出口
(SEB 5T)



普通取付取付電線図



普通取付取付電線図



三六取付取付電線図

四日市市建築設計業務委託共通仕様書

第1章 総則

1.1 適用

1. 本共通仕様書(以下「共通仕様書」という。)は、建築設計業務(建築意匠、建築構造、電気設備、機械設備の設計業務及び積算業務をいうものとし、以下「設計業務」という。)の委託に適用する。
2. 設計仕様書は、相互に補完するものとする。ただし、設計仕様書の中に相違がある場合、設計仕様書の優先順位は、次の(1)から(4)の順序のとおりとする。
 - (1) 質問回答書
 - (2) 現場説明書
 - (3) 特記仕様書
 - (4) 共通仕様書
3. 受託者は、前項の規定により難しい場合又は設計仕様書に明示のない場合若しくは疑義を生じた場合には、監督職員と協議するものとする。

1.2 用語の定義

共通仕様書に使用する用語の定義は、次の各項に定めるところによる。

1. 「委託者」とは、四日市市長をいう。
2. 「受託者」とは、設計業務の実施に関し、委託者と契約を締結した個人若しくは会社その他の法人をいう。
3. 「監督職員」とは、契約図書に定められた範囲内において受託者又は管理技術者に対する指示、承諾又は協議等の職務を行う者で、契約書第9条に規定する者をいう。
4. 「検査員」とは、設計業務の完了の確認、部分払の請求に係る既履行部分の確認及び部分引渡しの指定部分に係る業務の完了の確認を行う者で、契約書第32条第2項の規定に基づき、委託者が定めた者をいう。
5. 「管理技術者」とは、契約の履行に関し、業務の管理及び総括等を行う者で、契約書第10条第1項の規定に基づき、受託者が定めた者をいう。
6. 「契約図書」とは、契約書及び設計仕様書をいう。
7. 「設計仕様書」とは、質問回答書、現場説明書、特記仕様書及び共通仕様書をいう。
8. 「質問回答書」とは、特記仕様書、共通仕様書及び現場説明書並びに現場説明に関する入札等参加者からの質問書に対して、委託者が回答した書面をいう。
9. 「現場説明書」とは、設計業務の入札等に参加する者に対して、委託者が当該設計業務の契約条件を説明するための書面をいう。
10. 「特記仕様書」とは、設計業務の実施に関する明細又は特別な事項を定める図書をいう。
11. 「共通仕様書」とは、設計業務に共通する事項を定める図書をいう。
12. 「特記」とは、1.1の2.の(1)から(3)に指定された事項をいう。
13. 「指示」とは、監督職員が受託者に対し、設計業務の遂行上必要な事項について書面をもって示し、実施させることをいう。
14. 「請求」とは、委託者又は受託者が契約内容の履行若しくは変更に関して相手方に書面をもって行為若しくは同意を求めることをいう。
15. 「通知」とは、設計業務に関する事項について、書面をもって知らせることをいう。

16. 「報告」とは、受託者が監督職員に対し、設計業務の遂行に当たって、調査及び検討した事項について、書面をもって通知することをいう。
17. 「承諾」とは、受託者が監督職員に対し、書面で申し出た設計業務の遂行上必要な事項について、監督職員が書面により同意することをいう。
18. 「協議」とは、書面により業務を遂行する上で必要な事項について、委託者と受託者が対等の立場で合議することをいう。
19. 「提出」とは、受託者が委託者又は監督職員に対し、設計業務に係る書面又はその他の資料を説明し、差し出すことをいう。
20. 「書面」とは、手書き、印刷等の伝達物をいい、発効年月日を記載し、署名又は捺印したものを有効とする。緊急を有する場合は、ファクシミリ又はEメールにより伝達できるものとするが、後日有効な書面と差し替えるものとする。
21. 「検査」とは、検査員が契約図書に基づき、設計業務の完了の確認、部分払の請求に係る既履行部分の確認及び部分引渡しの指定部分に係る業務の完了の確認をすることをいう。
22. 「打合せ」とは、設計業務を適正かつ円滑に実施するために管理技術者等と監督職員が面談等により、業務の方針、条件等の疑義を正すことをいう。
23. 「修補」とは、委託者が受託者の負担に帰すべき理由による不良箇所を発見した場合に受託者が行うべき訂正、補足その他の措置をいう。
24. 「協力者」とは、受託者が設計業務の遂行に当たって、その業務の一部を再委託する者をいう。

第2章 設計業務の範囲

設計業務は、一般業務及び追加業務とし、それらの業務内容は次に掲げるところによる。

1. 一般業務の内容は、平成31年国土交通省告示第98号(以下「告示」という。)別添一第1項に掲げるものとし、範囲は特記による。
2. 追加業務の内容及び範囲は特記による。

第3章 業務の実施

3.1 業務の着手

受託者は、設計仕様書に定めがある場合を除き、契約締結後14日以内に設計業務に着手しなければならない。この場合において、着手とは、管理技術者が設計業務の実施のため監督職員との打合せを開始することをいう。

3.2 設計方針の策定等

1. 受託者は、業務を実施するに当たり、設計仕様書及び監督職員の指示を基に設計方針の策定(告示別添一第1項第一号イに掲げる基本設計方針の策定及び第二号イに掲げる実施設計方針の策定をいう。)を行い、業務当初及び変更の都度、監督職員の承諾を得なければならない。
2. 受託者は、計算書に、計算に使用した理論、公式の引用、文献等並びにその計算過程を明示するものとする。
3. 電子計算機によって計算を行う場合は、プログラムと使用機種について、あらかじめ監督職員の承諾を得なければならない。

3.3 適用基準等

1. 受託者が、業務を実施するに当たり、適用すべき基準等(以下「適用基準等」という。)は、特記

による。

2. 受託者は、適用基準等により難しい特殊な工法、材料、製品等を採用しようとする場合は、あらかじめ監督職員と協議し、承諾を得なければならない。
3. 適用基準等で市販されているものについては、受託者の負担において備えるものとする。

3.4 提出書類

1. 受託者は、委託者が指定した様式により、契約締結後に、関係書類を監督職員を経て、速やかに委託者に提出しなければならない。ただし、業務委託料に係る請求書、請負代金代理受領承諾書、遅延利息請求書、監督職員に関する措置請求に係る書類及びその他現場説明の際指定した書類を除くものとする。
2. 受託者が委託者に提出する書類で様式及び部数が定められていない場合は、受託者において様式を定め、提出するものとする。ただし、委託者がその様式を指示した場合は、これに従わなければならない。

3.5 業務計画書

1. 受託者は、契約締結後14日以内に業務計画書を作成し、監督職員に提出しなければならない。
2. 業務計画書には、契約図書に基づき、次の事項を記載するものとする。
 - (1) 業務一般事項
 - (2) 業務工程計画
 - (3) 業務体制
 - (4) 業務方針
3. 受託者は、業務計画書の重要な内容を変更する場合は、理由を明確にしたうえ、その都度監督職員に変更業務計画書を提出しなければならない。
4. 監督職員が指示した事項については、受託者は更に詳細な業務計画に係る資料を提出しなければならない。

3.6 守秘義務

受託者は、契約書の規定に基づき、業務の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならない。

3.7 再委託

1. 受託者は、設計業務における総合的な企画及び判断並びに業務遂行管理部分を、契約書の規定により、再委託してはならない。
2. 受託者は、コピー、印刷、製本、計算処理(構造計算、設備設計及び積算を除く)、トレース、資料整理、模型製作、透視図作成等の簡易な業務を第三者に再委託する場合は、委託者の承諾を得なくともよいものとする。
3. 受託者は、第1項及び第2項に規定する業務以外の再委託に当たっては、委託者の承諾を得なければならない。
4. 受託者は、設計業務を再委託する場合は、委託した業務の内容を記した書面により行うこととする。なお、協力者については、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止を受けている期間中である者を選任してはならない。
5. 受託者は、協力者及び協力者が再々委託を行うなど複数の段階で再委託が行われるときは当該複数の段階の再委託の相手方の住所、氏名及び当該複数の段階の再委託の相手方がそれぞれ行う業務の範囲を記載した書面を更に詳細な業務計画に係る資料として、監督職員に提出しなければならない。
6. 受託者は、協力者に対して、設計業務の実施について適切な指導及び管理を行わなければ

ならない。また、複数の段階で再委託が行われる場合についても必要な措置を講じなければならない。

3.8 特許権等の使用

受託者は、契約書に規定する特許権、実用新案権、意匠権、商標権その他日本国の法令に基づき保護される第三者の権利の対象である履行方法を委託者が指定した場合は、その履行方法の使用について委託者と協議しなければならない。

3.9 監督職員

1. 委託者は、契約書の規定に基づき、監督職員を定め、受託者に通知するものとする。
2. 監督職員は、契約図書に定められた範囲内において、指示、承諾、協議等の職務を行うものとする。
3. 監督職員の権限は、契約書に定める事項とする。
4. 監督職員がその権限を行使するときは、書面により行うものとする。ただし、緊急を要する場合、監督職員が受託者に対し口頭による指示等を行った場合には、受託者はその指示等に従うものとする。監督職員はその指示等を行った後7日以内に書面により受託者にその内容を通知するものとする。

3.10 管理技術者

1. 受託者は、契約書の規定に基づき、管理技術者を定め委託者に通知しなければならない。なお、管理技術者は、日本語に堪能でなければならない。
2. 管理技術者の資格要件は、特記仕様書による。
3. 管理技術者は、契約図書等に基づき、業務の技術上の管理を行うものとする。
4. 管理技術者に委任できる権限は、契約書第10条第2項に定める事項とする。ただし、受託者が管理技術者に委任できる権限を制限する場合は、委託者に書面をもってその内容を含め通知しない限り、管理技術者は受託者の一切の権限(契約書第10条第2項の規定により行使できないとされた権限を除く。)を有するものとされ、委託者及び監督職員は、管理技術者に対して指示等を行えば足りるものとする。
5. 管理技術者は、関連する他の設計業務が発注されている場合は、円滑に業務を遂行するために、相互に協力しつつ、その受託者と必要な協議を行わなければならない。

3.11 資料の貸与及び返却

1. 監督職員は、設計仕様書において貸与すると定める図面及び適用基準等並びにその他関連資料(以下「貸与資料」という。)を受託者に貸与するものとする。
2. 受託者は、貸与資料の必要がなくなった場合は直ちに監督職員に返却するものとする。
3. 受託者は、貸与資料を善良な管理者の注意をもって取扱わなければならない。万一、損傷した場合には、受託者の責任と費用負担において修復するものとする。
4. 受託者は、設計仕様書に定める守秘義務が求められる資料については、これを他人に閲覧させ、複写させ、又は譲渡してはならない。

3.12 関連する法令、条例等の遵守

受託者は、設計業務の実施に当たっては、関連する法令、条例等を遵守しなければならない。

3.13 関係官公庁への手続き等

1. 受託者は、設計業務の実施に当たっては、委託者が行う関係官公庁等への手続き及び立会いの際に協力しなければならない。また、受託者は、設計業務を実施するため、関係官公庁等に対する諸手続き及び立会いが必要な場合は、速やかに行うものとし、その内容を監督職員に報

告しなければならない。

2. 受託者が、関係官公庁等から交渉を受けたときは、遅延なくその内容を監督職員に報告し、必要な協議を行うものとする。

3. 14 打合せ及び記録

1. 設計業務を適正かつ円滑に実施するため、管理技術者と監督職員は常に密接な連絡をとり、業務の方針、条件等の疑義を正すものとし、その内容については、その都度受託者が書面(打合記録簿)に記録し、相互に確認しなければならない。
2. 設計業務着手時及び設計仕様書に定める時期において、管理技術者と監督職員は打合せを行うものとし、その結果について、管理技術者が書面(打合記録簿)に記録し、相互に確認しなければならない。

3. 15 条件変更等

1. 契約書第18条第1項第5号に定める「予期することのできない特別な状態」とは、委託者と受託者が協議し当該規定に適合すると判断した場合とする。
2. 監督職員が、受託者に対して契約書第18条第4項に定める契約図書の訂正又は変更の指示を行う場合は、書面によるものとする。

3. 16 一時中止

委託者は、次の各号に該当する場合は、契約書第20条の規定により、設計業務の全部又は一部を一時中止させるものとする。

- (1) 関連する他の設計業務の進捗が遅れたため、設計業務の続行を不相当と認めた場合
- (2) 天災等の受託者の責に帰することができない事由により、設計業務の対象箇所の状態や受託者の業務環境が著しく変動したことにより設計業務の続行が不適切又は不可能となった場合
- (3) 受託者が契約図書に違反し、又は監督職員の指示に従わない場合等、監督職員が必要と認めた場合。

3. 17 履行期間の変更

1. 受託者は、契約書第22条の規定に基づき、履行期間の延長が必要と判断した場合には、履行期間の延長理由、必要とする延長日数の算定根拠、業務工程を修正した業務計画書その他必要な資料を委託者に提出しなければならない。
2. 受託者は、契約書の規定に基づき、履行期間を変更した場合は、速やかに修正した業務工程表を提出しなければならない。

3. 18 修補

1. 受託者は、監督職員から修補を求められた場合は、速やかに修補をしなければならない。
2. 受託者は、検査に合格しなかった場合は、直ちに修補をしなければならない。なお、修補の期限及び修補の完了の検査については、検査員の指示に従うものとする。

3. 19 設計業務の成果物

1. 契約図書に規定する成果物には、特定の製品名、製造所名又はこれらが推定されるような記載をしてはならない。ただし、これにより難しい場合は、あらかじめ監督職員と協議し、承諾を得なければならない。
2. 国際単位系の適用に際し疑義が生じた場合は、監督職員と協議を行うものとする。
3. 受託者は、設計仕様書に規定がある場合又は監督職員が指示し、これに同意した場合は、履行期間途中においても、成果物の部分引渡しを行わなければならない。

3. 20 検査

1. 受託者は、設計業務が完了したとき、部分払を請求しようとするとき及び部分引渡しの指定部分に係る業務が完了したときは、検査を受けなければならない。
2. 受託者は、検査を受ける場合は、あらかじめ成果物並びに指示、請求、通知、報告、承諾、協議、提出及び打合せに関する書面その他検査に必要な資料を整備し、監督職員に提出しておかなければならない。
3. 受託者は、契約書の規定に基づく部分払の請求に係る既履行部分の確認の検査を受ける場合は、当該請求に係る既履行部分の算出方法について監督職員の指示を受けるものとし、当該請求部分に係る業務は、次の(1)及び(2)の要件を満たすものとする。
 - (1)監督職員の指示を受けた事項がすべて完了していること。
 - (2)契約図書により義務付けられた資料の整備がすべて完了していること。
4. 検査員は、監督職員及び管理技術者の立会のうえ、設計業務の実施状況について、書類等により検査を行うものとする。

3. 21 個人情報の取り扱いに関する事項

この契約による業務を行うに当たり個人情報を取り扱う場合においては、別紙に定める「個人情報取扱注意事項」を遵守すること。

3. 22 暴力団等不当介入に関する事項

1. 契約の解除

四日市市の締結する契約等からの暴力団等排除措置要綱(平成28年2月12日告示第38号)第3条又は第4条の規定により、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止措置を受けた場合は、契約を解除することがある。

2. 不当介入に係る通報等の義務及び義務を怠った場合の措置

- (1) 暴力団等による不当介入を受けた場合、次の義務を負うものとする。
 - ・断固として拒否するとともに、速やかに警察へ通報並びに業務発注所属へ報告し、警察への捜査協力を行うこと。
 - ・契約の履行において、不当介入を受けたことにより、納期等に遅れが生じる等の被害が生じるおそれがある場合は、発注所属と協議を行うこと。
- (2) 上記の義務を怠ったときは、四日市市建設工事等入札参加資格停止基準に基づく入札参加資格停止の措置を講ずる。

3. 23 障害者差別解消に関する事項

1. 対応要領に沿った対応

- (1) この契約による事務・事業の実施(以下「本業務」という。)の請負(委託)を受けた者(以下「受注者(受託者)」という。)は、本業務を履行するに当たり、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成25年法律第65号。以下「法」という。)に定めるもののほか、障害を理由とする差別の解消の推進に関する四日市市職員対応要領(平成29年2月28日策定。以下「対応要領」という。)に準じて、「障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止」及び「社会的障壁の除去のための合理的な配慮の提供」等、障害者に対する適切な対応を行うものとする。
- (2) (1)に規定する適切な対応を行うに当たっては、対応要領に示されている障害種別の特性について十分に留意するものとする。

2. 対応指針に沿った対応

上記1に定めるもののほか、受注者(受託者)は、本業務を履行するに当たり、本業務に係る対応指針(法第11条の規定により主務大臣が定める指針をいう。)に則り、障害者に対して適切な対応を行うよう努めなければならない。

個人情報取扱注意事項

(基本事項)

第1 この契約による業務の委託を受けた者(以下「乙」という。)は、この契約による業務を行うに当たり、個人情報を取り扱う際には、個人情報の保護の重要性を認識し、個人の権利利益を侵害することのないようにしなければならない。

(受託者の義務)

第2 乙及びこの契約による業務に従事している者又は従事していた者(以下「乙の従事者」という。)は、当該業務を行うに当たり、個人情報を取り扱うときは、個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号。以下「法」という。)第67条に規定する義務を負う。

2 乙は、この契約による業務において個人情報が適正に取り扱われるよう乙の従事者を指揮監督しなければならない。

(秘密の保持)

第3 乙及び乙の従事者は、この契約による業務を行うに当たって知り得た個人情報を当該業務を行うために必要な範囲を超えて使用し、又は他人に知らせてはならない。

2 乙は、乙の従事者が在職中及び退職後においても、前項の規定を遵守するように必要な措置を講じなければならない。

3 前2項の規定は、この契約が終了し、又は解除された後においても同様とする。

(適正な管理)

第4 乙は、この契約による業務に係る個人情報の漏えい、滅失又は改ざんの防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じなければならない。

2 乙は、個人情報の適正な管理のため、管理責任者を置くものとする。

3 管理責任者は、個人情報を取り扱う業務の従事者を必要な者に限定し、これらの従事者に対して、個人情報の管理方法等について適正な指導管理を行わなければならない。

4 四日市市(以下「甲」という。)は、必要があると認めたときは、個人情報の管理状況等に関し、乙に対して報告を求め、又は乙の作業場所を実地に調査することができるものとする。この場合において、甲は乙に必要な改善を指示することができるものとし、乙は、その指示に従わなければならない。

(収集の制限)

第5 乙及び乙の従事者は、この契約による業務を行うために、個人情報を収集するときは、当該業務を行うために必要な範囲内で、適法かつ公正な手段により収集しなければならない。

(再委託の禁止)

第6 乙は、あらかじめ甲の承諾があった場合を除き、この契約による業務を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。

2 乙は、前項の承諾により再委託(下請を含む。以下同じ。)する場合は、再委託先における個人情報の適正な取り扱いのために必要な措置を講じなければならない。

3 前項の場合において、乙は、再委託先と本注意事項に準じた個人情報の取り扱いに関する契約を交わすものとする。

(複写、複製の禁止)

第7 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、この契約による業務を行うに当たって、甲から提供された個人情報が記録された資料等(以下「資料等」という。)を複写し、又は複製してはならない。

(持ち出しの禁止)

第8 乙及び乙の従事者は、あらかじめ甲の指示又は承諾があった場合を除き、資料等(複写又は複製したものを含む。第9において同じ。)を契約書に指定された作業場所から持ち出してはならない。

2 甲及び乙は、乙が前項の指示又は承諾により資料等を持ち出す場合、その内容、期間、持ち出し先、輸送方法等を書面により確認するものとする。

3 前項の場合において、乙は、資料等に施錠又は暗号化等を施して関係者以外の者がアクセスできないようにするとともに、資料等を善良なる管理者の注意をもって保管又は管理し、漏えい、滅失及びき損の防止その他適切な管理を行わなければならない。

(資料等の返還)

第9 乙は、この契約による業務を行うに当たって、甲から提供された個人情報記録された資料等を、当該業務の終了後速やかに甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により廃棄し、又は消去する場合を除く。

2 前項の廃棄又は消去は、次の各号に定めるほか、他に漏えいしないよう適切な方法により行うものとする。

(1)紙媒体 シュレッダーによる裁断

(2)電子媒体 データ完全消去ツールによる無意味なデータの上書き、もしくは媒体の破砕

3 乙は、第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による業務を第三者に委託し、又は請け負わせたときは、当該業務の終了後速やかに当該第三者から資料等を回収のうえ甲に返還し、又は引き渡さなければならない。ただし、甲の指示により、乙又は第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合を除く。

4 前項ただし書の規定により、第三者が資料等を廃棄し、又は消去する場合においては、乙は、当該資料等が廃棄、又は消去されたことを直接確認しなければならない。

(研修・教育の実施)

第10 乙は、乙の従事者に対し、個人情報の重要性についての認識を深めるとともに、この契約による業務における個人情報の適正な取扱いに資するための研修・教育を行うものとする。

(苦情の処理)

第11 乙は、この契約による業務を行うに当たって、個人情報の取扱いに関して苦情があったときは、適切かつ迅速な処理に努めるものとする。

(定期報告及び事故発生時における報告)

第12 乙は、甲から個人情報の取扱いの状況について報告を求められた場合は、直ちに報告しなければならない。

2 乙は、この個人情報取扱注意事項に違反する事故が生じ、又は生じるおそれがあることを知ったときは、速やかに甲に報告し、甲の指示に従うものとする。

(監査及び検査)

第13 甲は、この契約による業務に係る個人情報の取扱いについて、この契約の規定に基づき必要な措置が講じられていることを検証及び確認するため、乙及び第6の規定により甲の承諾を得てこの契約による業務を受託し、又は請け負った第三者に対して、監査又は検査を行うことができる。

2 甲は、前項の目的を達するため、乙に対して必要な情報を求め、又はこの契約による業務の処理に関して必要な指示をすることができる。

(契約解除及び損害賠償)

第14 甲は、乙又は乙の従事者がこの個人情報取扱注意事項に違反していると認めたときは、契約の解除及び損害賠償の請求をすることができる。